○第一篇　官制　處務服務

◎第十五章　行政裁判所

◉第一節　行政裁判法

●行政裁判法　明治二十三年六月法律第四十八號

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判法

第一章　行政裁判所組織

第一條　行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條　行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム行政裁判所ニ書記ヲ置クノ其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ內閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラルヽモノトス

書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條　長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一　公然政事ニ關係スルコト

二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコ

ト

三　兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四　商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條　第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルヽコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ內閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條　長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條　長官ハ自ラ裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條　行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半數ニ依ル

第十條　長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一　裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二　裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三　裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

第十一條　前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條　忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條　行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章　行政裁判所權限

第十五條　行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條　行政裁判所ハ損害要償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ內閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ內閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條　行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條　行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條　行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條　行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ嘱託スルコトヲ得

第三章　行政訴訟手續

第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條　行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行フ

第二十五條　訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一　原告ノ身分、職業、住所、年齡

二　被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三　要求ノ事件及其理由

四　立證

五　年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書竝ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條　訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條　行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴訟ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條　行政裁判所ニ於テ訴訟ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條　行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條　行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所內ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條　行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其效力ヲ有ス

第三十二條　行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條　行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ錄サヽル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證憑ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十五條　主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條　行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條　公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條　行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ竝ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サヽル場合ニ於テ處分スヘキ科間ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條　行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條　審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條　召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルニトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

第四十三條　行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條　行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章　附則

第四十四條　此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條　第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條　從前ノ法令ニシテ此ノ法律ト牴觸スルモノハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條　此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍從前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

◉第二節　行政裁判所

●行政裁判所處務規程　明治二十三年八月勅令第百九十二號

改正　●明治三十四年四月勅令第七十三號

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所處務規程

第一條　行政裁判所部長故障アルトキハ其部ノ評定官行政裁判法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

行政裁判所評定官故障アルトキノ代理順序ハ行政裁判所長官之ヲ定ム

第二條　部長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ其部ノ評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ指命スルコトヲ得

專理員ハ合議ノ際先ツ事實、證憑及爭點ニ付說明ヲ爲スヘシ

第三條　判決ハ審問終結シタル期日又ハ其期日ヨリ十四日以內ニ之ヲ言渡スヘシ

第四條　裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入セシム

第九條　每年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノノ外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ並ニ新ナル訴訟ニ著手セス

第六條　行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス

第七條ノ二　法規ノ解釋ニ付判例ヲ變更セムトスルトキ又ハ法規ノ解釋ヲ一定スルノ必要アルトキハ長官ハ之ヲ總會議ノ議ニ付ス

第八條　行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條　行政裁判所ハ法律命令ノ範圍內ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條　行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍內ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

●行政裁判法ニ依ル組織及事務分配ノ件

明治三十四年四月勅令第七十二號

廢行政裁判法第八條第二項ニ依ル組織及事務分配ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　行政裁判所ニ第一第二ノ二部ヲ置ク

第二條　行政裁判所ニ部長二人ヲ置ク

部長一人ハ勅任評定官中ヨリ之ヲ命ス

第三條　長官ハ一ノ部ニ長タルヘシ

長官ハ每年部長並評定官ノ部屬ヲ定ム

第四條　長官ハ各部ニ屬スヘキ事務ノ分配ヲ定ム

部長ハ部內ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十四年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●行政裁判所評定官及書記員數並職務ノ件

明治二十二年七月勅令第三百五十五號

改正　●明治三十二年七月勅令第三百五十五號

朕行政裁判所評定官ノ員數竝書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　行政裁判所評定官ノ定員ハ專任十一人トス

行政裁判所書記ノ定員ハ十五人トス

第二條　行政裁判所書記ハ行政裁判法其ノ他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ

第三條　行政裁判所書記ハ往復會計記錄其他庶務ニ從事ス

第四條　行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ

●行政裁判所評定官及書記員數並職務ノ件

明治二十三年六月勅令第百十一號

第拾六章

貴族院事務局

現行

法規集第一篇第十六章目錄

◎第一篇　官制（處務服務）

◎第十六章　貴族院事務局

◉第一節　事務局

●貴族院事務局官制……一

●貴族院事務局分課規程……二

●貴族院事務局ニ技手ヲ置クノ件……三

○第一篇 官制 處務服務

◎第十六章 貴族院事務局

◉第一節 事務局

●貴族院事務局官制 明治二十三年七月 勅令第百二十一號

改正 ●明治二十四年七月 勅令第九十九號 ●明治二十六年十月 勅令第百六十五號 ●明治三十一年十月 勅令第三百七號 ●明治二十四年十一月 勅令第二百六號 ●明治三十年十月 勅令第三百四十九號

貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長	一人
書記官	專任五人
屬	十二人
速記技手	二十五人
守衛長	一人
守衛番長	三人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條　屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

第六條　守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス

第七條　守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

●貴族院事務局分課規程

明治三十五年十一月十七日官報

貴族院事務局分課規程

第一條　貴族院事務局ニ左ノ四課ヲ置ク

一　議事課
二　委員課
三　速記課
四　庶務課

第二條　議事課ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本會議ニ關スル事項
二　議事日程ノ調製、報告及發言通告ニ關スル事項
三　各部ニ關スル事項
四　議案其ノ他會議ニ關スル文書ノ受領印刷配付ニ關スル事項
五　質問ニ關スル事項
六　議員ノ闕席及請暇ニ關スル事項
七　議事錄、議決原本其ノ他議事ニ關スル文書ノ調製竝取扱ニ關スル事項
八　議事ニ關スル官報報告材料蒐集ニ關スル事項
九　先例錄及事務局報告編纂ニ關スル事項

第三條　委員課ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　委員會ノ會議ニ關スル事項

二　請願竝資格及選舉爭訟ニ關スル事項
三　委員會會議錄其ノ他委員會ニ關スル文書調製ニ關スル事項
四　委員會先例錄編纂ニ關スル事項

第四條　速記課ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　本會議及委員會會議ノ速記錄編製ニ關スル事項
二　速記錄ノ官報報告及印刷配付ニ關スル事項
三　速記錄訂正ニ關スル事項

第五條　庶務課ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　議員ノ身分竝其ノ辭職又ハ補闕選舉ノ上奏ニ關スル事項
二　職員ノ身分及進退ニ關スル事項
三　議院議長、副議長ノ公印及官印ノ保管ニ關スル事項
四　文書ノ接受、發送ニ關スル事項
五　官報報告及統計ニ關スル事項
六　傍聽券、入場券、通院券ニ關スル事項
七　儀式ニ關スル事項
八　會計用度及官有財產保管ニ關スル事項
九　守衛事務ニ關スル事項
十　文庫管理ニ關スル事項
十一　公文書類、圖書及內外新聞雜誌ノ出納ニ關スル事項
十二　議院ニ關スル參考書類ノ調查編輯ニ關スル事項
十三　貴族院要覽其ノ他議院ニ於テ刊行スル法規ノ調查編輯ニ關スル事項
十四　他課ノ分掌ニ屬セサル文書ノ調製及事務ニ關スル事項

第六條　各課ニ課長ヲ置キ書記官ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　各書記官ハ議場ニ於テ本會議ニ關スル事務ニ從事ス

●貴族院事務局ニ技手ヲ置クノ件

明治三十年十一月勅令第四百十三號

朕貴族院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院事務局ニ屬定員以内ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得

第拾七章

衆議院事務局

現行法規集第一篇第十七章目錄

○第一篇　官制　處務服務

◎第十七章　衆議院事務局

◉第一節　事務局

●衆議院事務局官制……一

●衆議院事務局分掌規程……二

●衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件……三

○第一篇　官制　處務服務

◎第十七章　衆議院事務局

◉第一節　事務局

●衆議院事務局官制　明治二十三年七月勅令第百二十二號

改正　●明治二十四年七月勅令第百號　●明治二十六年十月勅令第百六十六號　●明治二十七年七月勅令第百二十二號　●明治二十四年十一月勅令第二百七號　●明治三十年十月勅令第三百五十號　●明治三十一年十月勅令第三百八號

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局官制

第一條　衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長	一人
書記官	專任五人
屬	十二人
速記技手	二十五人
守衛長	一人
守衛番長	三人

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條　屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

第六條　守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス

第七條　守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

●衆議院事務局分掌規程　明治三十三年三月二十二日官報

衆議院事務局分掌規程

第一條　衆議院事務局ニ左ノ六課一館ヲ置ク

秘書課
議事課
委員課
速記課
警務課
庶務課
圖書館

第二條　秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　議員ノ闕席、請暇、辭職、補闕選擧請求ニ關スル事項
二　議事日程調製ニ關スル事項
三　諸般ノ報告ニ關スル事項
四　發言通告ニ關スル事項
五　議長指名ノ委員選定ニ關スル事項
六　議案類請願書及質問書ノ受理及議決議案類ノ配送ニ關スル事項
七　其他議長ノ事務ニシテ他課ノ管掌ニ屬セサル事項
八　議員名籍及議院要覽ノ編製ニ關スル事項

第三條　議事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本會議ニ關スル事項

二　議案類ノ調査ニ關スル事項

三　議事錄及決議錄ノ編製ニ關スル事項

四　先例彙纂及記事摘要ノ編製ニ關スル事項

第四條　委員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　委員會及部會ニ關スル事項

二　委員會及部會ノ文書調査ニ關スル事項

三　委員會及部會會議錄ノ編製ニ關スル事項

四　議事綜覽及委員會先例彙纂ノ編製ニ關スル事項

第五條　速記課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本會議及委員會議ノ速記及速記錄編製ニ關スル事項

第六條　警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　議院内部ノ警察及取締ニ關スル事項

二　傍聽券ノ配布ニ關スル事項

三　火夫給仕小使車夫ノ指揮監督ニ關スル事項

四　面會人及書類ノ接受發送ニ關スル事項

第七條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　職員ノ身分進退及採用試驗ニ關スル事項

二　議案類、請願文書表、委員會速記錄、衆議院公報等ノ配送ニ關スル事項

三　普通公文案ノ起草及調査ニ關スル事項

四　普通公文書類ノ接受及配送ニ關スル事項

五　衆議院公報ノ編製ニ關スル事項

六　衆議院日誌ノ編製ニ關スル事項

七　官印保管ニ關スル事項

八　官報報告及統計ニ關スル事項

九　會計用度及官有財産保管ニ關スル事項

十　他課ノ分掌事務ニ屬セサル事項

第八條　圖書館ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公文書類ノ出納保管ニ關スル事項

二　内外圖書記錄新聞雜誌ノ購入交換竝ニ出納保管ニ關スル事項

三　參考書ノ調査編製ニ關スル事項

四　其他圖書ニ關スル一切ノ事項

●衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件

明治三十年十一月勅令第四百十四號

衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局ニ属定員以内ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得

第拾八章

警視廳

現行 法規集第一篇第十八章目錄

○第一篇 官制 處務服務

◎第十八章 警視廳

◎第一節 警視廳

●警視廳官制……一

●警視廳ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件……一

○第一篇　官制　處務服務

◎第十八章　警視廳

◎第一節　警視廳

●警視廳官制　明治二十六年十月勅令第百五十九號

改正

●明治二十九年六月勅令第二百五十一號　●明治三十一年十月勅令第三百四號

●明治三十年六月勅令第百九十一號　●明治三十三年四月勅令第百六十九號

●明治三十一年六月勅令第百二十八號　●明治三十三年九月勅令第三百八十一號

●明治三十四年五月勅令第百六號

●明治三十五年三月勅令第六十八號

●明治三十六年三月勅令第三十二號

朕警視廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳官制

第一條　警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

警視總監

警視

技師

警察醫長

警部

警視属
技手
消防士
警察醫
消防機關士
通譯

第二條　警視總監ハ一人勅任トス

第三條　警視ハ二十七人警察醫長ハ一人奏任トス

第四條　警部、警視属、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ハ判任トス

警部、警視属、消防士、警察醫及消防機關士ノ定員ハ通シテ二百五十六人トシ其ノ各官ノ定員ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム

第五條　技師技手及通譯ハ警視廳ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

通譯ハ判任トス

第六條　警視總監ハ主務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察及消防ノ事務ヲ管理ス

第七條　警視總監ハ各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ高等警察事務ニ就テハ内閣總理大臣及内務大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第八條　警視總監ハ東京府下ノ警察事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第九條　警視總監ハ其ノ主務ニ就テハ東京府下ノ島司、郡市區長及ヒ町村長ヲ指揮監督ス

第十條　警視總監ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ進退ハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條　警視總監ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　警視總監ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條　警視總監事故アルトキハ上席警視其ノ職務ヲ代理ス

警視總監ハ警視廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十三條ノ二　警視總監ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ島司ニ委任スルコトヲ得

第十三條ノ三　警視總監ハ島司ノ處分若ハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ職權ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分若ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十四條　警視廳ニ總監官房ヲ設ク

總監官房ニ三課ヲ設キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一　各部署成案ノ審査及制規ニ關スル事項
二　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
三　公文ノ編纂、保存、統計並書籍ノ管守ニ關スル事項
四、文書ノ往復及官印廳印ノ管守ニ關スル事項
五　他課及各部署ノ主務ニ屬セサル事項

第二課

一　高等警察ニ關スル事項
二　外國人ニ關スル事項

第三課

一　經費豫算、決算及金錢出納ニ關スル事項

二　金錢物品出納ノ檢査ニ關スル事項
三　需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項
四　官沒並保管ノ金錢物品及不用品ニ關スル事項

第十五條　總監官房ニ主事一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス
主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
官房第二課長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ第一課長及第三課長ハ警部警視厲ヲ以テ之ニ充ツ
官房各課員ハ警部警視厲通譯ヲ以テ之ヲ充ツ
課長ハ上官ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス

第十六條　警視廳ニ左ノ部署ヲ置ク
第一部　第二部
第三部　消防署

第十七條　第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課
一　犯罪ノ捜査、刑餘人、無賴徒、變死傷者其ノ他公安ニ關スル事項
二　失踪者、瘋癲者、不良子弟、棄兒、迷兒及戸口民籍ニ關スル事項
三　遺流失物埋藏物等ニ關スル事項

第二課
一　警衛ニ關スル事項
二　警察署警察分署派出所等ノ廢置及其ノ職員ノ配置ニ關スル事項

三　巡査召募及其ノ教習ニ關スル事項

第十八條　第二部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課
一　營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項

第二課
一　交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災豫防等ニ關スル事項

第十九條　（削除）

第二十條　第三部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課
一　衛生警察ニ關スル事項

第二課
一　警察ニ關スル醫務及分析等ニ關スル事項

第二十一條　第一部長第二部長ハ警視、第三部長ハ警察醫長ヲ以テ之ニ補ス
部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
第一部及第二部ノ課長ハ警部又ハ警視厲、課員ハ警部、警部補、警視厲ヲ以テ之ニ充ツ
第三部ノ課長ハ警視厲又ハ警察醫長ヲ以テ之ニ充ツ課員ハ警視厲、警察醫ヲ以テ之ニ充ツ

第二十二條　部長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
第一部長ハ警察事務ニ付警察署長以下ヲ指揮スルコトヲ得
課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其課務ヲ處理シ課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス

第二十三條　消防署ニ於テハ水火消防ニ關スル事項ヲ掌ル

第二十四條　警視總監ハ東京市內ニ消防分署ヲ配置ス、

第二十五條　消防署長ハ第一部長又ハ第二部長タル警視ヲ以テ之ニ充ツ

消防署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

消防分署長ハ消防士、分署員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條　消防署長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

警察署長ハ水火災ニ際シ消防署長出場前ニ於テ消防分署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ分署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス

消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防機關ノ運用ヲ掌ル

第二十七條　（削除）

第二十八條　（削除）

第二十九條　（削除）

第三十條　（削除）

第三十一條　東京府下ニ二十三警察署ヲ置ク其ノ管轄區域ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

東京府下ニ一水上警察署ヲ置ク

警視總監ハ警察署ノ下ニ便宜分署ヲ置クコトヲ得

第三十二條　警察署長ハ警視、署員ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

必要ノ場合ニ於テハ警部ヲ以テ分署員ニ充ツルコトヲ得

第三十三條　警察署長、警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

署員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署ノ事務ニ從事シ巡査ヲ指揮監督ス

第三十四條　（削除）

第三十五條　巡査ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附　則

第三十六條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

（別表）

警察署管轄區域表

署名	管轄區域
麹町警察署	麹町區
神田警察署	神田區
日本橋警察署	日本橋區
京橋警察署	京橋區
芝警察署	芝區
麻布警察署	麻布區
赤阪警察署	赤阪區

四谷警察署	四谷區	
牛込警察署	牛込區	
小石川警察署	小石川區	
本郷警察署	本郷區	
下谷警察署	下谷區	
淺草警察署	淺草區	
本所警察署	本所區	
深川警察署	深川區	
品川警察署	荏原郡	
新宿警察署	南豊島郡 東多摩郡	
板橋警察署	北豊島郡ノ内	日暮里村 下線馬村 志村 大泉村 溜ノ川村 岩淵村 巣鴨村 板橋町 中新井村 赤塚村 王子村 巣鴨町 高田村 長崎村 上線馬村 石神井村
千住警察署	南足立郡 南葛飾郡ノ内 北豊島郡ノ内	南綾瀬村 南千住町 寺島村 三河島村 本田村 尾久村 隅田村 龜青村

小松川警察署	南葛飾郡ノ内	吾嬬村 小松川村 大木村 新宿町 龜戸村 平井村 砂村 奥戸村 大島村 葛西村 小岩村 一ノ江村 瑞穗村 水元村 松江村
八王子警察署	南多摩郡	
府中警察署	北多摩郡	
青梅警察署	西多摩郡	

●警視廳ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件

明治三十六年一月勅令第二號

朕警視廳ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　「ペスト」豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲警視廳ニ臨時左ノ職員ヲ置キ第三部ニ屬セシム

防疫事務官	專任	三人
檢疫醫		九十人
防疫書記	專任	五人
監吏		九十人

第二條　防疫事務官ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第三條　檢疫醫、書記及監吏ハ警視總監之ヲ命ス

第四條　官吏ニシテ第一條ノ職員タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ク其ノ官ニ在ラサル者ノ待遇ハ防疫事務官ニ在リテハ奏任其ノ他ノ者ニ在リテハ判任トス

第五條　官吏ニシテ第一條ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ一箇年六百圓以內其ノ他ノ者ニハ一箇月百五十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ檢疫醫、專任書記及監吏ニ支給スヘキ手當ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第拾九章

道廳府縣

現行法規集第一篇第十九章目錄

○第一篇　官制　處務服務

◎第十九章　道廳府縣

●第一節　北海道廳

●北海道廳官制……一
●北海道廳支廳ノ名稱位置及管轄區域……二
●北海道ニ事業手ヲ置クノ件……三
●北海道廳森林監守規程……四
●北海道鐵道部官制……五
●北海道砂金採取者臨時取締ニ要スル職員ノ件……六

●第二節　府縣

●地方官官制……七
●府縣ノ警視ニ關スル件……八
●警視ヲ置クヘキ府縣警察署指定……九

●參事官二人ヲ置ク縣指定……一〇
●港務部設置ノ件……一一
●廳府縣ニ臨時檢疫官ヲ置クノ件……一二
●管轄外海港檢疫職權行使ニ關スル件……一三
●産婆試驗委員設置規程……一四
●廳府縣巡查定員……一五
●横濱港灣維持ニ關スル職員ノ件……一六
●公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件……一七
●學校醫職務規程……一八
●學校醫ノ資格ヲ定ム……一九
●地方測候所職員ニ關スル件……二〇
●地方測候所ノ位置ヲ定ム……二一
●地方森林會規則……二二
●島地指定ニ關スル件……二三

●沖繩縣郡區職員及島廳職員ニ關スル件……二四
●沖繩縣間切島吏員規程……二五
●沖繩縣間切島吏員規程ノ實施ニ關スル件……二六

○第二篇　官制　處務　服務

◎第十九章　道廳府縣

◉第一節　北海道廳

●北海道廳官制　明治三十年十月勅令第三百九十二號

改正　●明治三十一年十月勅令第三百五號　●明治三十二年六月勅令第二百五十二號　●明治三十三年六月勅令第二百六十一號　●明治三十四年四月勅令第四十七號　●明治三十四年五月勅令第九十七號　●明治三十五年三月勅令第六十九號　●明治三十五年六月勅令第百六十八號　●明治三十六年三月勅令第三十三號

廢北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道廳官制

第一條　北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　事務官　警部長　支廳長　參事官　視學官　警視　技師　屬　視學　技手　警部

翻譯生

第二條　長官ハ一人勅任トス

第三條　事務官ハ專任三人奏任トシ內務部長、殖民部長及土木部長ニ充ツ但シ內務部長ニ充ツル事務官ハ勅任トナスコトヲ得

第四條　警部長ハ一人奏任トシ警察部長ニ充ツ

第五條　支廳長ハ各支廳一人奏任トス

第六條　參事官二人視學官一人及警視九人奏任トス

第七條　專任技師ハ十六人ヲ以テ定員トス

第八條　屬、視學、警部、翻譯生ハ判任トス屬、警部ヲ通シテ四百二十八人ヲ以テ定員トス

第九條　視學ノ定員ハ內務大臣及文部大臣之ヲ定ム

技手ハ百四十七人翻譯生ハ二人ヲ以テ定員トス

第九條ノ二　前各條ノ定員ノ外農事試驗ニ關スル職員ヲ置キ其ノ定員ハ專任技師三人、技手二人トス

第十條　長官ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民竝部內ノ行政事務ヲ總理ス

長官ハ屯田兵ノ開墾授產ノ事ヲ監督ス

第十一條　長官ハ北海道ノ事務ニ付其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其ノ一部ニ關合ヲ發スルコトヲ得

第十二條　長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十三條　長官ハ支廳長ノ處分若ハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分若ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十四條　長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ高等官ノ進退ハ內務大臣若ハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十五條　長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其ノ高等官ニ係ルモノハ之ヲ內務大臣若ハ主務大臣ニ具狀シ其ノ他ハ之ヲ專行ス

第十六條　長官ハ廳中及所轄官廳ノ分課竝處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條　長官事故アルトキハ內務部長タル事務官其ノ職務ヲ代理セシム

長官及內務部長タル事務官共ニ事故アルトキハ內務大臣ニ於テ道廳高等官ノ內一名ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

長官ハ官廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ支廳長ニ委任スルコトヲ得

第十八條　北海道廳ニ長官官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一　官吏ノ進退身分及褒賞ニ關スル事項

二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項

三　官印廳印ノ管守ニ關スル事項

第十九條　道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ四部ヲ置ク

內務部　殖民部　土木部　警察部

第二十條　內務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　支廳、戶長役場、郡町村總代人及區町村其ノ他公共組合ニ關スル事項

二　職員選舉、北海道會及北海道地方費ニ關スル事項

三　賑恤救濟ニ關スル事項
四　兵事、社寺及敎育ニ關スル事項
五　外國人ニ關スル事項
六　豫算、決算、會計、官有財産及物品ニ關スル事項
七　所轄官廳ノ會計監督ニ關スル事項
八　出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項
九　（削除）
十　（削除）
十一　統計報告ニ關スル事項
十二　廳中他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二十一條　殖民部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　殖民地ノ選定經畫其ノ他殖民ニ關スル事項
二　土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
三　地籍ニ關スル事項
四　官有地管理ニ關スル事項
五　土地收用ニ關スル事項
六　農商工務ニ關スル事項
七　水陸運輸ニ關スル事項
八　水產及漁獵ニ關スル事項
九　山林ニ關スル事項

第二十二條　土木部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　土木ニ關スル事項
二　水面埋立ニ關スル事項

第二十三條　警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　行政警察ニ關スル事項
二　高等警察ニ關スル事項
三　圖書出版及版權ニ關スル事項
四　衛生ニ關スル事項

第二十四條　（削除）
第二十五條　（削除）
第二十六條　（削除）

第二十七條　部長ハ長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及部中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
第二十八條　支廳長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部內ニ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理ス
第二十九條　支廳長ハ行政事務ニ就テ其ノ部內ノ戶長ヲ指揮監督ス
第三十條　支廳長ハ法律命令ニ依リ若ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ得
第三十一條　支廳長事故アルトキハ其廳勤務ノ上席屬其ノ職務ヲ代理ス
支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第三十二條　參事官ハ長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル
第三十三條　參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ又ハ各部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ
第三十三條ノ二　視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル事務ヲ掌ル

第三十四條　警視ハ警察部ニ屬シ又ハ警察署長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ掌理ス

第三十五條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十六條　（削除）

第三十七條　長官官房及各部中便宜課ヲ設クルトキハ各課ニ課長一人ヲ置キ上官ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ掌理セシム

課長ハ屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ參事官、視學官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ

第三十八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十八條ノ二　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス

第三十九條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第四十一條　翻譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス

第四十二條　（削除）

第四十三條　（削除）

第四十四條　（削除）

第四十五條　管內須要ノ地ニ道廳支廳ヲ置ク

支廳ノ位置名稱及管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條　每郡區若ハ數郡區ニ警察署ヲ置キ各警察署部內ニ警察分署ヲ配置ス但シ郡區ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得

警察署及警察分署ノ位置名稱及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第四十七條　警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十八條　（削除）

第四十九條　巡査及森林監守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

第五十條　本令ハ明治三十年十一月五日ヨリ施行ス

第五十一條　從前ノ法律命令ニ於テ北海道郡區長ノ管掌ニ屬シタル事項ハ北海道廳支廳長ニ於テ處理スヘキモノトス

從前郡區長ノ兼掌シタル戸長ノ事務ハ支廳長ニ於テ之ヲ其ノ廳在勤屬ニ委任スルコトヲ得

北海道廳支廳長ノ發スル支廳令ニハ明治二十六年勅令第百九十九號中郡令ニ關スル規程ヲ適用ス

第五十二條　臨時北海道鐵道敷設部官制及北道道廳臨時築港ニ要スル職員ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●北海道廳支廳ノ名稱位置及管轄區域　明治三十年十月勅令第三百九十五號

改正　●明治三十二年五月勅令第百九十一號　●明治三十二年九月勅令第三百八十五號　●明治三十四年三月勅令第十三號

朕北海道廳支廳ノ名稱位置及管轄區域ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳支廳ノ名稱位置及管轄區域別表ノ通定ム

附則

本令ハ明治三十年勅令第三百九十二號北海道廳官制施行ノ日ヨリ施行ス

（別表）

名稱	位置	管轄區域
北海道廳札幌支廳	石狩國札幌區大通西三町目	札幌郡、千歳郡、石狩郡、厚田郡、濱益郡
北海道廳函館支廳	渡島國函館區元町	龜田郡、上磯郡、茅部郡、山越郡
北海道廳松前支廳	渡島國松前郡福山河原町	松前郡
北海道廳檜山支廳	渡島國檜山郡江差中歌町	檜山郡、爾志郡、久遠郡、奥尻郡、太櫓郡、瀬棚郡
北海道郡嚮都支廳	後志國壽都郡嚮都渡島町	壽都郡、島牧郡、歌棄郡、磯谷郡
北海道廳岩内支廳	後志國岩内郡御鉾内町	岩内郡、古宇郡、虻田郡ノ内俱知安村
北海道廳小樽支廳	後志國小樽郡最徳町	小樽郡、高島郡、忍路郡、余市郡、古平郡、美國郡、積丹郡

北海道廳空知支廳	石狩國	空知郡岩見澤村
北海道廳上川支廳	石狩國	空知郡ノ內窟眞野村ヲ除ク　夕張郡、雨龍郡、樺戸郡
	上川郡旭川村	上川郡石狩國　空知郡ノ內窟眞野村　上川郡天鹽國
		中川郡天鹽國
北海道廳增毛支廳	天鹽國	增毛郡留萌郡苫前郡天鹽郡
	增毛郡永壽町	
北海道廳宗谷支廳	北見國	宗谷郡枝幸郡利尻郡禮文郡
	宗谷郡稚內村	
北海道廳網走支廳	北見國	網走郡斜里郡常呂郡紋別郡
	網走郡北見町	
北海道廳室蘭支廳	膽振國	室蘭郡有珠郡虻田郡俱知安村ヲ除ク　幌別郡、勇拂郡、白老郡
	室蘭郡札幌通	
北海道廳浦河支廳	日高國	浦河郡、沙流郡、新冠郡、靜內郡、三石郡、様似郡、幌泉郡
	浦河郡浦河村	
北海道廳釧路支廳	釧路國	釧路郡、足寄郡、阿寒郡、川上郡、厚岸郡
	釧路郡眞砂町	白糠郡
北海道廳河西支廳	十勝國	河西郡、河東郡、上川郡十勝國　中川郡、十勝郡、當縁郡、廣尾郡、
	河西郡下帶廣村	
北海道廳根室支廳	根室國	根室郡、花咲郡、野付郡、標津郡、目梨郡、國後郡、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡
	根室郡根室郡常盤町	
北海道廳紗那支廳	千島國	紗那郡、振別郡、擇捉郡、蘂取郡
	紗那郡紗那村	

●北海道ニ事業手ヲ置クノ件

明治三十年四月勅令第百三十三號

朕北海道廳ノ事業ニ要スル經費豫算內ニ於テ事業手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳長官ハ土地ノ處分ニ關スル事業及土木水產農事等ノ事業ニ從事セシムル爲其ノ事業ニ要スル經費豫算內ニ於テ事業手ヲ置クコトヲ得

事業手ハ判任官ノ待遇ヲ受ク

●北海道廳森林監守規程　明治三十年四月勅令第百二號

改正　●明治三十三年一月勅令第五號

朕北海道森林監守規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳森林監守規程

第一條　北海道廳ニ森林保護費豫算定額內ニ於テ森林監守ヲ置ク

第二條　森林監守ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ官林保護ニ從事ス

第三條　森林監守ハ判任官ノ待遇ヲ受ク

第四條　森林監守ノ月俸ハ十圓以上十五圓以下トス

第五條　森林監守勤續七箇年以上ノ者ハ月俸二十圓迄ヲ給スルコトヲ得

●北海道鐵道部官制　●明治三十二年六月勅令第二百九十七號

改正　●明治三十三年八月勅令第三百二十三號　●明治三十四年六月勅令第百二十六號　●明治三十五年三月勅令第七十號　●明治三十六年七月勅令第百二十二號

廢北海道鐵道部官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道鐵道部官制

第一條　北海道鐵道部ニ北海道鐵道部ヲ置キ北海道ニ於ケル官有鐵道ノ建設保存及運輸ノ業務ヲ掌理セシム

第二條　北海道鐵道部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	一人	奏任
鐵道事務官	專任二人	奏任
鐵道技師	專任十四人內一人ハ勅任トナスコトヲ得	
鐵道書記	專任百四十八人	判任
鐵道技手	專任九十四人	

第三條　部長ハ北海道廳高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム

部長ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ一切ノ部務ヲ掌理ス

第四條　鐵道事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務運輸ヲ掌ル

第五條　鐵道技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工務ヲ掌ル

第六條　鐵道書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務運輸ニ從事ス

第七條　鐵道技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第八條　北海道廳長官ハ內務大臣ノ許可ヲ經テ必要ノ地ニ鐵道業務ヲ取扱フ爲支所ヲ置キ鐵道部ノ業

務ヲ分掌セシムルコトヲ得

●北海道砂金採取者臨時取締ニ要スル職員ノ件

明治三十三年五月 勅令第百八十八號

改正 ●明治三十五年三月 勅令第七十一號

朕北海道ニ於ケル砂金採取者臨時取締ニ要スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道ニ於ケル砂金採取者臨時取締ノ爲北海道廳ニ警部三人ヲ置キ警察部ニ屬セシム

◉第二節　府縣

●地方官官制　明治二十六年十月勅令第百六十二號

改正

●明治二十九年三月勅令第十五號
●明治二十九年七月勅令第二百七十六號
●明治二十九年十月勅令第三百三十七號
●明治二十九年三月勅令第六十五號
●明治二十九年六月勅令第二百四十九號
●明治三十二年六月勅令第二百五十三號
●明治三十三年三月勅令第九十五號
●明治三十五年六月勅令第百六十九號
●明治三十三年四月勅令第百七十號
●明治三十六年三月勅令第三十四號
●明治三十五年三月勅令第七十二號

朕地方官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

第一條　各府縣ニ左ノ職員ヲ置ク

知事
書記官
警部長
參事官
視學官
技師
屬
視學
技手
警部

通譯

第二條　知事ハ一人勅任トス

第三條　書記官、警部長、參事官及視學官ハ各一人奏任トス

但シ內務大臣ノ指定スル府縣ニ於テハ參事官二人ヲ置クコトヲ得

第四條　屬及警部ハ判任トシ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス

屬、警部　五千七十七人

屬及警部ノ每府縣ノ定員ハ主務大臣之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

視學ハ判任トシ其ノ定員ハ內務大臣及文部大臣之ヲ定ム

第五條　技師、技手及通譯ハ府縣ノ須要ニ依リ俸給豫算定額內ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

通譯ハ判任トス

第六條　知事ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ管理ス

第七條　知事ハ部內ノ行政事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第八條　知事ハ郡長又ハ島司ノ處分若クハ命令ノ成規ニ遵ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分若クハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條　知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十條　知事ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ內務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十一條　知事ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ內務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　知事ハ臨中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條　知事事故アルトキハ書記官其ノ職務ヲ代理シ書記官事故アルトキハ內務大臣ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

前項ノ場合ニ於テ書記官事故アルトキハ內務大臣ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十四條　知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第十五條　各府縣ニ知事官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二　文書ノ往復ニ關スル事項

三　官印府縣印ノ管守ニ關スル事項

四　褒賞ニ關スル事項

第十六條　各府縣ニ左ノ部ヲ置ク

內務部　警察部

第十七條　內務部ニ五課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ但シ知事ハ事務ノ情況ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ經テ課ヲ增置シ若ハ其ノ事務ノ分掌ヲ變更スルコトヲ得

第一課

一　議員選擧ニ關スル事項

二　府縣行政並郡市町村其ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項

三　府縣經濟竝郡市町村其ノ他公共團體ノ經濟ノ監督ニ關スル事項
四　兵事ニ關スル事項
五　社寺及宗教ニ關スル事項
六　名勝舊蹟ニ關スル事項
七　民籍ニ關スル事項
八　賑恤救濟ニ關スル事項
右ノ外他ノ主掌ニ屬セサル事項
東京府ニ於テハ右ノ外衛生ニ關スル事項

第二課
一　土木ニ關スル事項
二　地理ニ關スル事項
三　土地收用ニ關スル事項

第三課
一　教育學藝ニ關スル事項

第四課
一　農工商ニ關スル事項
二　森林及水產ニ關スル事項
三　度量衡ニ關スル事項

第五課
一　附縣ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項

二　府縣經濟ニ屬スル收支出納ニ關スル事項

第十八條　警察部ニ於テハ高等警察、行政警察及衛生ノ事務ヲ掌ル

第十九條　（消滅）

第二十條　（削除）

第二十一條　書記官ハ內務部長、警部長ハ警察部長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十二條　內務部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシメ警察部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第二十三條　參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ審查立案ヲ掌ル

參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ內務部ノ課長トナリ又ハ臨時部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第二十三條ノ二　視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル事務ヲ掌ル

視學官ハ知事ノ命ヲ承ケ內務部第三課ノ課長トナルコトアルヘシ

第二十四條　警察部ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ

第二十五條　內務部各課長ハ參事官又ハ視學官ヲ以テ之ニ充ツル場合ヲ除クノ外技師、屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ但シ內務大臣及農商務大臣ノ指定シタル府縣ニ於テハ本令第十七條ニ規定スル第四課ノ事務ヲ掌ル課長ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理ス

第二十六條　屬ハ內務部各課及知事官房ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十七條　警部ハ警察部又ハ警察署若クハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ巡並ヲ指揮監督ス

第二十八條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス

第二十九條　（削除）

第三十條　（削除）

第三十條ノ二　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス

第三十一條　各郡市ニ警察署ヲ置ク但シ地方ノ必要ニ應シ郡市ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ內務大臣其ノ管轄區域ヲ定ム

知事ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得

第三十二條　警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十三條　巡查ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條　（消滅）

第三十五條　（同上）

第三十六條　（削除）

第三十七條　府縣職員ノ外警察醫ヲ置クコトヲ得判任官ノ待遇トス

第三十八條　東京府ノ警察ニ關スル事項ハ警視廳官制ニ依ル

第三十九條　郡職員ヲ置クコト左ノ如シ

郡長　郡書記　郡視學

第四十條　明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第五條ニ依リ數郡ニ郡長一人ヲ置キタル地方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ要スルトキ及同條ニ依リ新ニ數郡ニ郡長一人ヲ置クコトヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ每郡ニ郡長一人ヲ置ク

第四十一條　郡長ハ奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部內ニ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十二條　郡長ハ行政事務ニ就テ其ノ部內ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十三條　郡長ハ部下ノ判任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

第四十四條　郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得

第四十五條　郡長事故アルトキハ上席郡書記其ノ職務ヲ代理ス

第四十六條　郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十七條　郡書記ハ判任トス其ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十八條　郡視學ハ一人判任トス郡長ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス

第四十八條ノ二　知事ハ須要ニ依リ郡ニ技手ヲ置クコトヲ得

第四十九條　勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク

第五十條　各島廳ニ左ノ職員ヲ置ク

島司　島廳書記　島廳視學

第五十一條　島司ハ一人奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部內ニ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五十二條　島司ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島廳令ヲ發スルコトヲ得

第五十三條　島司ハ部下ノ判任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

第五十四條　島司ハ行政事務ニ就テ其ノ部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス

第五十五條　島司事故アルトキハ上席島廳書記其ノ職務ヲ代理ス

第五十六條　島司ハ島廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五十七條　島廳書記ハ判任トス其ノ府縣判任官ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム

島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十八條　島廳視學ハ一人判任トシ當分ノ内島廳書記ヲシテ之ヲ兼ネシム島司ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス

第五十八條ノ二　知事ハ須要ニ依リ島廳ニ技手ヲ置クコトヲ得

附　則

第五十九條　本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

●府縣ノ警視ニ關スル件

明治三十三年五月勅令第二百四十三號

第一條　俸給豫算定額内ニ於テ府縣ニ警視ヲ置クコトヲ得

第二條　警視ハ警察部ニ屬シ又ハ警察署長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス

第三條　警察部ニ屬スル警視ハ大阪府ハ二人、其ノ他ノ府縣ハ一人ヲ踰ユルコトヲ得ス

警察署長ニ補スル警視ハ各府縣ヲ通シテ八十人以内トス

第四條　警視ノ俸給左表ノ如シ

一級	二級	三級	四級	五級	六級
千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓

●警視ヲ置クヘキ府縣警察署指定　（明治三十三年四月五日内務省告示第十八號）

改正　●（明治三十三年六月告示第十五號）　●（明治三十三年八月告示第十三號）　●（明治三十五年七月告示第十五號）　●（明治三十五年七月告示第十二號）

明治三十三年勅令第二百四十三號第三條第三項ノ警察署左ノ通之ヲ指定ス

府縣名	警察署名		
京都府	上長者町警察署	五條警察署	松原警察署
	中立賣警察署	御池警察署	
大阪府	東警察署	西警察署	南警察署
	難波警察署	北警察署	曾根崎警察署
	安治川水上警察署		
神奈川縣	伊勢崎町警察署	加賀町警察署	諏訪町警察署
	横濱水上警察署	横須賀警察署	
兵庫縣	神戸警察署	兵庫警察署	相生橋警察署
	神戸水上警察署	姫路警察署	
長崎縣	長崎警察署	梅香崎警察署	長崎水上警察署
	佐世保警察署		
新潟縣	新潟警察署		

埼玉縣	浦和警察署	
千葉縣	千葉警察署	
茨城縣	水戸警察署	
群馬縣	前橋警察署	高崎警察署
栃木縣	宇都宮警察署	
奈良縣	奈良警察署	
三重縣	津警察署	宇治山田警察署
愛知縣	名古屋警察署	
靜岡縣	靜岡警察署	
山梨縣	甲府警察署	
滋賀縣	大津警察署	
岐阜縣	岐阜警察署	
長野縣	長野警察署	
宮城縣	仙臺警察署	
福島縣	福島警察署	

鹿兒島縣	鹿兒島警察署	
青森縣	青森警察署	弘前警察署
山形縣	山形市警察署	
秋田縣	秋田警察署	
福井縣	福井警察署	敦賀警察署
石川縣	金澤警察署	
富山縣	富山警察署	
鳥取縣	鳥取警察署	
島根縣	松江警察署	
岡山縣	岡山警察署	
廣島縣	廣島警察署	吳警察署
山口縣	山口警察署	赤間關警察署
和歌山縣	和歌山警察署	
德島縣	德島警察署	
香川縣	高松警察署	丸龜警察署

愛媛縣	松山警察署	
高知縣	高知警察署	
福岡縣	福岡警察署	
	久留米警察署	
	門司警察署	
	小倉警察署	
大分縣	大分警察署	
佐賀縣	佐賀警察署	
熊本縣	熊本市警察署	
宮崎縣	宮崎警察署	
鹿兒島縣	鹿兒島警察署	
沖繩縣	那覇警察署	

● 參事官二人ヲ置ク縣指定　明治三十二年六月内務省令第七十號

地方官官制第三條但書ニ依リ參事官二人ヲ置ク縣ヲ指定スル左ノ如シ

神奈川縣
兵庫縣
長崎縣

●港務部設置ノ件　明治三十五年三月勅令第七十三號

朕港務部設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　神奈川縣、兵庫縣、長崎縣及福岡縣ニハ地方官官制第十六條ニ揭ケル部署ノ外港務部ヲ置キ海港檢疫所ヲ附屬セシム

長崎縣港務部ニハ海港檢疫所ノ外海港檢疫支所ヲ附屬セシム

第二條　港務部ヲ置キタル縣ニハ左ノ職員ヲ置ク

港務長
港務官
港務醫官
屬
港吏
港務醫官補
港務調劑手

第三條　港務長ハ一人、港務官ハ二人及港務醫官ハ一人奏任トス

屬、港吏、港務醫官補及港務調劑手ハ判任トシ通シテ七十四人ヲ以テ定員トシ其ノ各縣ノ定員ハ內務大臣之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

第四條　港務部ニ三課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

海務課

一　開港港則ニ關スル事項

二　開港港則施行區域內ニ於ケル行政警察及衛生ニ關スル事項

檢疫課

一　海港檢疫ニ關スル事項

庶務課

一　庶務ニ關スル事項

各課ニ課長ヲ置ク課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理ス

第五條　港務長ハ港務部長ト爲リ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

港務長ハ港長ノ事務ヲ行ヒ所部ノ事務ニ關シテハ水上警察署長ヲ指揮監督ス

第六條　港務部長事故アルトキハ知事ニ於テ縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第七條　港務官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ分掌ス

港務官ハ知事ノ命ヲ承ケ海務課長又ハ檢疫課長ト爲ル

第八條　港務醫官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

第九條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務課長ト爲ル

屬ハ知事ノ命ヲ承ケ庶務課長ト爲ル

第十條　港吏ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十一條　港務醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

第十二條　港務關係手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ關係ニ從事ス

第十三條　港務部ヲ置キタル縣ニ於テハ知事ハ臨時必要アリト認ムルトキハ檢疫又ハ醫務ニ從事セシムル爲海港檢疫費豫算定額內ニ於テ港務部ニ檢疫員又ハ檢疫醫員ヲ設クルコトヲ得

檢疫員及檢疫醫員ハ判任官ノ待遇トス

附則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海港檢疫所官制ハ之ヲ廢止ス

二　開港港則施行區域內ニ於ケル行政警察及衛生ニ關スル事項

檢疫課

一　海港檢疫ニ關スル事項

庶務課

一　庶務ニ關スル事項

各課ニ課長ヲ置ク課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理ス

第五條　港務長ハ港務部長ト爲リ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

港務長ハ港長ノ事務ヲ行ヒ所部ノ事務ニ關シテハ水上警察署長ヲ指揮監督ス

第六條　港務部長事故アルトキハ知事ニ於テ縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第七條　港務官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ分掌ス

港務官ハ知事ノ命ヲ承ケ海務課長又ハ檢疫課長ト爲ル

第八條　港務醫官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

第九條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

屬ハ知事ノ命ヲ承ケ庶務課長ト爲ル

第十條　港吏ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十一條　港務醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

第十二條　港務調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第十三條　港務部ヲ置キタル縣ニ於テハ知事ハ臨時必要アリト認ムルトキハ檢疫又ハ醫務ニ從事セシムル爲海港檢疫費豫算定額內ニ於テ港務部ニ檢疫員又ハ檢疫醫員ヲ設クルコトヲ得

檢疫員及檢疫醫員ハ判任官ノ待遇トス

附則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海港檢疫所官制ハ之ヲ廢止ス

●廳府縣ニ臨時檢疫官ヲ置クノ件　明治三十三年三月勅令第九十七號

廳府縣ニ臨時檢疫官ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　傳染病流行シ又ハ流行ノ兆アルトキハ內務大臣ノ指定シタル廳府縣ニ檢疫官若干人ヲ置キ之ヲ警察部（警視廳ニアリテハ第三部）ニ屬セシム

第二條　檢疫官ハ上官ノ命ヲ承ケ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ分掌ス

第三條　檢疫官ハ醫師藥劑師等ニ就キ警視總監地方長官之ヲ命ス

第四條　檢疫官ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニハ一箇月百二十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五條　檢疫官ニハ內國旅費規則ニ依リ四等旅費ヲ給ス

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十八年勅令第四十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 管轄外海檢疫職權行使ニ關スル件　明治三十五年三月勅令第七十六號

脫管轄外海港檢疫職權行使ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方長官ハ海港檢疫上必要アル場合ニ於テハ內務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ管轄區域外ニ於テ其ノ職權ヲ行フコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●産婆試驗委員設置規程

明治三十四年六月
内務省訓令第八號

産婆試驗委員設置規程左ノ通相定ム

産婆試驗委員設置規程

第一條　地方廳ニ産婆試驗委員長一人産婆試驗委員若干人ヲ置キ産婆試驗ニ關スル事務ヲ管掌セシム

第二條　産婆試驗委員長及産婆試驗委員ハ地方長官之ヲ選任スヘシ

産婆試驗委員長及産婆試驗委員ハ地方廳ノ官吏タル者ヲ除ク外其ノ任期ヲ四箇年トス但シ滿期後再任セラルルコトヲ得

第三條　産婆試驗ニ關シ書記若干人ヲ置キ庶務ニ從事セシム書記ハ地方長官其ノ廳ノ判任官ニ就キ之ヲ命ス

第四條　産婆試驗委員長産婆試驗委員及書記ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給スルコトヲ得

●廳府縣巡査定員

明治二十九年四月勅令第百四十八號

朕廳府縣巡査定員ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　廳府縣巡査ノ定員ハ左ノ定限内ニ於テ土地ノ狀況ヲ斟酌シ内務大臣之ヲ定ム

一　市ニ於テハ人口三百乃至八百ニ付　一人

二　郡ニ於テハ人口千乃至二千ニ付　一人

第二條　敎習中ノ巡査及願ニ依リ配置スル巡査ハ定員以外トス

第三條　本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第四條　第一條ニ依リ巡査ノ增員ヲ要スル廳府縣ニ於テ一時ニ增加シ難キ事情アルトキハ内務大臣ハ本令施行ノ日ヨリ五箇年内ニ漸次增加シテ定員ヲ充タスコトヲ得

第五條　本令ハ北海道廳及沖繩縣ニ適用セス

●横濱港灣維持ニ關スル職員ノ件　明治三十年二月勅令第十三號

廢横濱港灣維持ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

横濱港灣維持ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ左ノ職員ヲ置キ神奈川縣廳ニ屬セシム

技師　一人
屬　五人　判任
技手　六人

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件　明治三十一年一月勅令第二號

廢公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　北海道廳府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク

地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未滿ノ町立學校ニハ當分ノ內學校醫ヲ置カサルコトヲ得

第二條　學校醫ハ地方長官之ヲ囑託ス

第三條　學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ述フ〳〵ノ又之ニ建議スルコトヲ得

第四條　學校醫ニハ其ノ學校經費ヨリ相當ノ手當ヲ給ス〳〵シ

第五條　學校醫ノ囑託執務及其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第六條　本令ニ於テハ北海道沖繩縣ノ區ノ設置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視ス

第七條　市側町村側ヲ施行セサル地方ニ在テハ本令中市町村長ニ關スル規定ハ島司郡長（北海道ニ在テハ支廳長）區長戶長又ハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

第八條　本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

●學校醫職務規程　明治三十一年二月文部省令第六號

改正　●明治三十三年三月省令第五號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

學校醫職務規程

第一條　學校醫ハ本令ニ規程アルモノノ外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス

第二條　學校醫ハ每月少クトモ一回教授時間內ニ於テ當該學校ニ到リ衛生上ノ事項ヲ視察スヘシ

學年ノ終及學期ノ始ニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス

第三條　學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スヘシ

一　換氣ノ良否
二　採光ノ適否
三　机腰掛ノ適否
四　前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
五　煖爐ノ有無及煖爐ト最近生徒トノ距離
六　室內ノ溫度
七　圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否
八　學校清潔方法實行ノ情況
九　飮料水ノ良否
十　其ノ他衛生上必要ナル事項

第四條　學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其病症ニ依リ缺課休學又ハ療治

ヲ爲サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ

第五條　學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程ニ依リ生徒ノ身體ヲ檢查シ身體檢查票ヲ調製スヘシ

學校醫ハ生徒ノ入學退學等ニ際シ學校長ノ請求ニ應シ其ノ生徒ノ身體ヲ檢查スヘシ

第六條　學校醫ハ學校ノ近傍若ハ學校內ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尙其情況ニ依リ學校ノ全部若ハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ

第七條　學校醫ハ學生徒ノ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校ヲ禁スヘキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ

第八條　此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

●學校醫ノ資格ヲ定ム　明治三十一年二月文部省令第七號

改正　●明治三十四年一月省令第一號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫ノ資格ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　學校醫ヲ囑託スルニハ左ニ揭ケル各項中ノ一ニ該當シ且醫術開業免狀ヲ有スル者ノ中ニ於テスヘシ

一　帝國大學醫科大學醫學科卒業ノ者

二　元東京大學醫學部醫學科本科又ハ別課卒業ノ者

三　高等學校醫學部醫學科卒業ノ者

四　元高等中學校醫學部醫學科卒業ノ者

五　大阪府京都府愛知縣醫學校醫學科卒業ノ者

六　元府縣立甲種醫學校卒業ノ者

七　試驗ヲ經テ帝國大學醫科大學國家醫學講習科ニ入學シ同科ヲ修了シタル者

第二條　第一條ノ資格ヲ具フル者ヲ得難キ場合ニ於テハ明治十六年布告第三十五號醫師免許規則第二條又ハ第四條ニ依リ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ囑託スルコトヲ得

●地方測候所職員ニ關スル件　明治三十三年六月勅令第二百六十八號

朕地方測候所職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　地方測候所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　技師　技手　書記

土地ノ情況ニ依リ當分ノ內技師ヲ置カサルコトヲ得

第二條　所長ハ技師技手又ハ道廳府縣官吏ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

技師ノ任免奏薦及宣行ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令第四條第五條ノ例ニ依リ之ヲ行フ

第四條　技手及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

技手及書記ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ

第五條　技師ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　三年以上中央氣象臺又ハ附屬測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受クル者又ハ受ケタル者

二　五年以上同一測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シ月俸四十五圓以上ノ俸給ヲ受クル者又ハ受ケタル者

三　氣象ニ關シ特別ノ學術技藝アル者

第六條　技手ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　中學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二　三年以上中央氣象臺又ハ測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シタル者

第七條　技師技手及書記ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等內又ハ同等級內ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

附　則

本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

技師官等配當表

奏任							
五等	六等		七等		八等		
年俸千六百圓以上	年俸千二百圓以上千六百圓未滿		年俸八百圓以上千二百圓未滿		年俸六百圓以上八百圓未滿		

技手書記等級配當表

判任					
一等	二等	三等	四等	五等	
技手	月俸六十圓以上	月俸四十五圓以上六十圓未滿	月俸三十五圓以上四十五圓未滿	月俸二十五圓以上三十五圓未滿	月俸十二圓以上二十五圓未滿
書記			月俸三十五圓以上	月俸二十五圓以上三十五圓未滿	月俸十二圓以上二十五圓未滿

●地方測候所ノ位置ヲ定ム　明治二十年十月　內務省告示第四號

改正

●明治二十二年二月　告示第三號

●明治二十八年十一月　告示第八號

●明治二十八年三月　告示第三十四號

●明治二十九年八月　告示第十五號

●明治二十九年十二月　告示第二十二號

●明治三十二年四月　告示第五十六號

●明治三十一年七月　告示第三十八號

本年勅令第四十一號氣象臺測候所條例ニ基キ地方測候所ノ位置ヲ定ムルコト左ノ如シ

北海道廳	函館	大阪府	大阪	神奈川縣	橫濱
	札幌				
	根室	京都府	京都	兵庫縣	神戶
	帶廣				
	釧路			群馬縣	前橋
	上川			三重縣	津
	網走			滋賀縣	大津
	帶廣			宮城縣	石卷
				山形縣	山形
				島根縣	松江
				山口縣	赤間關
				愛媛縣	松山
				熊本縣	熊本
				長崎縣	長崎
				千葉縣	銚子
				愛知縣	名古屋
				岐阜縣	岐阜
				岩手縣	宮古
				石川縣	金澤
				鳥取縣	境
				和歌山縣	和歌山
				福岡縣	福岡
				宮崎縣	宮崎
				埼玉縣	浦和
				栃木縣	宇都宮
				山梨縣	甲府
				福島縣	福島
				秋田縣	河邊郡牛島町
				福井縣	福井
				廣島縣	廣島
				高知縣	高知
				佐賀縣	佐賀
				沖繩縣	那覇
				靜岡縣	沼津　濱松
				長野縣	長野、松本、飯田
				青森縣	青森
				富山縣	伏木
				岡山縣	岡山
				德島縣	德島
				大分縣	大分
				鹿兒島縣	鹿兒島

●地方森林會規則

明治三十年十二月勅令第四百四十號

改正 ●明治三十一年十一月勅令第三百二十九號 ●明治三十三年十一月勅令第四百一號

第一條 地方森林會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ審議ス

一 保安林ノ編入又ハ解除

二 保安林買上價格ノ評決

三 保安林補償金額ノ評決

第二條 地方森林會ハ會務整理ノ爲必要ナル規則ヲ議定シ農商務大臣ニ届出ッヘシ

前項ノ規則ニ對シ農商務大臣ハ訂正ヲ命スルコトヲ得

第三條 地方森林會ハ議事上實地ノ調査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ議員ヲ派遣スルコトヲ得

第四條 地方森林會ノ開會及閉會ノ期日ハ府縣知事之ヲ定メ農商務大臣ニ届出ッヘシ

地方森林會ノ審議事項ニシテ其ノ利害ノ關係二府縣以上ニ渉ルトキハ聯合地方森林會ヲ設ケヘシ其ノ開會地及開會閉會ノ期日ハ關係地方府縣知事之ヲ協定シ農商務大臣ニ届出ッヘシ

第五條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ於テ地方森林會又ハ聯合地方森林會ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得

一 第一條ニ揭ケル事項ヲ審議セサルトキ

二 議事其ノ權限ヲ越ヘ若ハ法律命令ニ背クト認ムルトキ

聯合地方森林會解散ノ場合ニ於テハ之ニ關聯スル地方森林會ハ同時ニ解散セラレタルモノトス

解散ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ解散ヲ命シタル日ヨリ三十日以内ニ更ニ地方森林會ノ議員ヲ命ス
ヘシ

第六條　地方森林會ハ議長一名議員十四名以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條　議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ指揮ス

第八條　議長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ議長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル府縣高等官之ヲ代理ス

議員ハ左ニ掲ケル者ニ就キ農商務大臣之ヲ命ス

一	府縣高等官	一人
二	土木監督署高等官	一人
三	鑛山監督署高等官	一人
四	大林區署高等官	一人
五	御料地所在ノ府縣ニ在リテハ御料局高等官	一人
六	府縣名譽職參事會員中ヨリ互選シタル者	二人
七	森林事業ニ經驗アル者	
八	治水、土木又ハ鑛山事業ニ經驗アル者	

前項ニ掲ケタル者ノ外地方ノ狀況ニ依リ農業又ハ水產事業ニ經驗アル者ヲ議員ニ命スルコトヲ得

第九條　官吏ニシテ議員タル者ノ外議員ノ任期ハ二年トス但シ府縣名譽職參事會員ノ任期ニ依ル

任期ハ府縣名譽職參事會員ノ任期ニ依ル

補闕議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十條　地方森林會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク

幹事ハ府縣高等官ノ中ヨリ府縣知事之ヲ命ス

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條　聯合地方森林會ハ關係地方森林會議員ノ總數ヲ以テ組織シ其ノ議長幹事書記及會務規則ハ開會地ノ地方森林會議長幹事書記及規則ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條　官吏ニシテ議長議員タル者及幹事書記ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ外議員ノ手當及旅費其ノ他地方森林會ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條　聯合地方森林會ノ費用ハ議員ノ手當及旅費ヲ除ノ外總テ開會地府縣ノ負擔トス

●島地指定ニ關スル件

明治三十三年三月勅令第九十四號

朕島地指定ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　地方官官制第四十九條ニ依リ左ノ島地ヲ指定ス

一　東京府大島

二　東京府八丈島　小島　青ヶ島　鳥島

第二條　大島ニ置ク島廳ヲ大島島廳ト稱シ八丈島小島青ヶ島鳥島ニ置ク島廳ヲ八丈島島廳ト稱ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●沖繩縣郡區職員及島廳職員ニ關スル件　明治二十九年三月勅令第十四號

第一條　沖繩縣島尻中頭國頭ノ各郡ニ郡長一人及郡書記若干人ヲ置ク

第二條　沖繩縣宮古八重山ノ各郡ニ島司一人及郡書記若干人ヲ置ク

第三條　沖繩縣那覇首里ノ各區ニ區長及區書記若干人ヲ置キ那覇區長ハ島尻郡長ヲ以テ之ニ充テ首里區長ハ中頭郡長ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　地方官官制中郡長ニ關スル規程ハ區長ニ適用シ郡書記ニ關スル規程ハ區書記ニ適用ス

第五條　沖繩縣郡區書記ノ定員ハ沖繩縣判任官ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム

附　則

第六條　本令施行ノ時期ハ内務大臣之ヲ定ム（明治二十九年三月内務省令第二號參看）

●沖繩縣間切島吏員規程 明治三十年三月勅令第五十六號

朕沖繩縣間切島吏員規程ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣間切島吏員規程

第一章　間切吏員ノ組織及任免

第一條　間切ニ間切長一名書記若干名ヲ置ク書記ノ定員ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第二條　間切ニ收入役一名ヲ置ク但シ場合ニ依リ沖繩縣知事ハ書記ヲシテ收入役ヲ兼務セシムルコトヲ得

郡長島司ハ收入役ヲシテ身元保證トシテ金圓若クハ物件ヲ間切ニ差出サシムルコトヲ得

第三條　間切內ノ村ニ村頭一名ヲ置ク但シ沖繩縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ數村ニ一名ノ村頭ヲ置キ又ハ村ニ村頭ヲ置カサルコトヲ得

第四條　間切長收入役書記村頭ハ沖繩縣知事之ヲ任免ス

第五條　郡長島司ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ間切又ハ間切內ノ村ニ必要ノ附屬員ヲ置クコトヲ得

附屬員ハ郡長島司之ヲ任免ス

第六條　郡長島司ニ於テ必要ト認ムルトキハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ間切ニ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ郡長島司之ヲ任免ス

第七條　沖繩縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ數間切ニ一名ノ間切長及其ノ他ノ間切吏員ヲ置クコトヲ得

第二章　間切吏員ノ職務權限

第八條　間切長ハ上司ノ指揮監督ヲ承ケ間切ヲ統轄シ法律命令若クハ慣例ニ依リ其ノ行政事務ヲ擔任ス

間切長ノ擔任スル事務ノ概目ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第九條　書記ハ間切長ノ命令ヲ承ケ庶務ニ從事ス

間切長故障アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス

間切長ハ書記ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十條　收入役ハ間切ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヒヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ掌ル

第十一條　村頭ハ間切長ノ命令ヲ承ケ村內ニ關スル間切長ノ事務ヲ補助執行ス

間切長ハ郡長ノ許可ヲ得テ村內ニ關スル其ノ事務ノ一部ヲ村頭ニ委任スルコトヲ得

第十二條　附屬員ハ間切長又ハ村頭ニ屬シ其ノ命令ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十三條　委員ハ間切長ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ郡長島司之ヲ定ム

第十四條　間切吏員ノ處務規程ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ郡長島司之ヲ定ム

第十五條　間切吏員ニハ官吏服務紀律及官吏懲戒令ヲ準用ス

間切長收入役書記村頭ノ懲戒處分ハ沖繩縣知事之ヲ行ヒ其ノ他ノ吏員ノ懲戒處分ハ郡長島司之ヲ行フ

第三章　給料及給與

第十六條　間切長收入役書記村頭ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十七條　委員ニハ給料ヲ給セス但シ郡長島司ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ報酬及旅費ヲ給スルコトヲ得

前項ノ報酬額旅費額及ヒ其ノ支給方法ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ郡長島司之ヲ定ム

第十八條　附屬員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十九條　沖繩縣知事ハ有給吏員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得

第二十條　給料旅費退隱料遺族扶助料及報酬ハ間切ノ負擔トス但シ從來ノ地役人諸給額ハ當分國庫ヨリ其ノ間切ニ支給ス

第四章　島吏員

第二十一條　島尻郡粟國島渡名喜島伊平屋島鳥島及國頭郡伊江島ノ各島ニ島長一名及收入役書記ヲ置ク

但シ其ノ他附屬員委員ヲ置クコトヲ得

前項各島內ノ村ニ村頭附屬員ヲ置クコトヲ得

島長ニ關シテハ間切長ニ關スル規程ヲ準用シ其ノ他ノ吏員ニ關シテハ間切吏員ニ關スル規程ヲ準用ス

第五章　宮古郡八重山郡ニ關スル特例

第二十二條　宮古郡八重山郡ニ於テハ各郡ノ區域ヲ以テ一間切ト見做ス

第二十三條　間切ニ間切長書記ヲ置カス間切長ノ職務ハ島司之ヲ行ヒ書記ノ職務ハ島廳書記之ヲ行フ

島司ハ村內ニ關スル間切事務ノ一部ヲ村頭ニ委任スルコトヲ得

第二十四條　收入役ハ島廳書記ノ中ニ就キ沖繩縣知事之ヲ命ス

附　則

第二十五條　此ノ勅令ニ規程アルモノヲ除ク外間切島吏員ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第二十六條　此ノ勅令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●沖繩縣間切島吏員規程ノ實施ニ關スル件

明治三十年三月內務省令第五號

一明治三十年勅令第五十六號沖繩縣間切島吏員規程ノ實施ニ際シ新任間切長又ハ島長ニ事務引繼ヲ了ルマデハ舊吏員ヲシテ從前ノ通事務ヲ取扱ハシムヘシ

一前項沖繩縣間切島吏員規程ノ施行ニ依リ廢職ニ屬スヘキ吏員ノ給料等ハ其ノ廢職ノ月マテ月割ヲ以テ支給スヘシ但シ前項ニ依リ事務取扱ヲ爲シ明治三十年五月以降ニ渉リタル者ノ給料等ハ從前ノ額ニ依リ其ノ事務引繼ヲ了リタル日マテ日割ヲ以テ支給スヘシ

第貳拾章

臺灣總督府

現行法規集第一篇第二十章目錄

○第一篇　官制（處務服務）

◎第二十章　臺灣總督府

●第一節　臺灣總督府

●臺灣總督府官制……一

●臺灣總督官房竝民政部警察本署及各局分課規程……二

●臺灣總督府事務委任事項……三

●臺灣總督府評議會章程……四

●臺灣中央衛生會規則……五

●高等土地調查委員會規則……六

●高等土地調查委員會規程……七

●臨時臺灣土地調查局官制……八

●臨時臺灣舊慣調查會規則……九

●臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則……一〇

●臺灣總督府圖書編修職員官制……一一
●臨時臺灣基隆築港局官制……一二
◉第二節　海港檢疫
●臺灣總督府海港檢疫所官制……一三
●臺灣總督府臨時海港檢疫所官制……一四
◉第三節　醫院
●臺灣總督府醫院官制……一五
◉第四節　神社
●官幣大社臺灣神社神職定員及出仕採用ノ件……一六
●官幣大社臺灣神社ニ守衛ヲ置クノ件……一七
◉第五節　練習所
●臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制……一八
◉第六節　專賣局
●臺灣總督府專賣局官制……一九
●臺灣總督府專賣支局出張所名稱位置……二〇
●臺灣總督府樟腦及樟腦油專賣支局ノ名稱位置及管轄區域……二一
●臺灣總督府食鹽專賣支局名稱位置及管轄區域……二二
◉第七節　糖務局
●臨時臺灣糖務局官制……二三
●臨時臺灣糖務局支局名稱位置及管轄區域……二四
◉第八節　稅關
●臺灣總督府稅關官制……二五
●臺灣總督府稅關管轄區域……二六
●稅關支署ノ名稱位置及管轄區域……二七
●稅關監視署ノ名稱及位置……二八
◉第九節　幕僚
●臺灣總督府陸軍幕僚條例……二九
●臺灣總督府海軍幕僚條例……三〇

◉第十節　陸軍
●臺灣陸軍補給廠條例……三一
●臺灣陸軍軍醫部條例……三二
●臺灣守備混成旅團司令部條例……三三
●臺灣守備混成旅團司令部附衛生部員服務規則……三四
●憲兵隊管區及配置表……三五
●臺灣陸軍法官部條例……三六
●臺灣陸軍獸醫部條例……三七
●臺灣陸軍經理部條例……三八
◉第十一節　法院
●臺灣總督府法院條例……三九
●臺灣總督府地方法院及出張所名稱位置管轄區域……四〇
◉第十二節　監獄
●臺灣總督府監獄官制……四一

●臺灣總督府監獄看守定員ノ件……四二
●臺灣總督府監獄ノ名稱位置……四三
●臺灣總督府監獄支監ノ名稱位置……四四
●臺北ニ設置スル陸軍監獄ノ管理並其ノ監獄長所屬ノ件……四五
◉第十三節　學校
●臺灣總督府師範學校官制……四六
●臺灣總督府國語學校官制……四七
●臺灣總督府國語傳習所官制……四八
●臺灣公學校官制……四九
●臺灣小學校官制……五〇
●臺灣總督府醫學校官制……五一
◉第十四節　鐵道
●臺灣總督府鐵道部官制……五二
●臺灣總督府鐵道係員職制……五三

●第十五節　郵便及電信
●臺灣總督府郵便及電信局官制……五四
●十六節　地方
●臺灣總督府地方官官制……五五
●臺灣總督府廳位置及管轄區域……五六
●地方土地調查委員會規則……五七
●臺灣總督府管內街、庄、社ニ長ヲ置クノ件……五八
●街、庄、社長設置規程……五九
●街、庄、社長ノ職務……六〇

○第一篇　官制　處務服務

◎第二十章　臺灣總督府

●第一節　臺灣總督府

●臺灣總督府官制　明治三十年十月勅令第三百六十二號

改正　●明治三十一年二月勅令第二十三號　●明治三十三年二月勅令第三十六號　●明治三十三年六月勅令第二百五十四號　●明治三十四年四月勅令第七十四號　●明治三十四年十一月勅令第二百一號　●明治三十五年十一月勅令第二百五十七號

臺灣總督府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府官制

第一條　臺灣總督府ニ臺灣總督ヲ置ク

總督ハ臺灣及澎湖列島ヲ管轄ス

第二條　總督ハ親任トス陸海軍大將若ハ中將ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　總督ハ委任ノ範圍內ニ於テ陸海軍ヲ統率シ內務大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス

第四條　總督ハ軍政及陸海軍軍人軍屬ノ人事ニ關シテハ陸軍大臣若ハ海軍大臣、防禦作戰竝動員計畫ニ關シテハ參謀總長若ハ海軍軍令部長、陸軍軍隊教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ承ク

第五條　總督ハ其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ依リ總督府令ヲ發シ之ニ禁錮一年以下又ハ罰金二百圓以內ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第六條　總督ハ其ノ管轄區域内ノ防備ノ事ヲ掌ル

第七條　總督ハ其ノ管轄區域内ノ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ必要ト認ムルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ内務大臣陸軍大臣海軍大臣參謀總長及海軍軍令部長ニ之ヲ報告スヘシ

第八條　明治二十九年法律第六十三號第二條又ハ第四條ノ勅裁ヲ請フトキハ内務大臣ヲ經由スヘシ

第九條　總督ハ必要ト認ムル地域内ニ於テ其ノ地ノ守備隊長若ハ駐在武官ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第十條　總督ハ廳長ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第十一條　總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任文官ノ進退ハ内務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　總督ハ内務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

第十三條　總督ハ所部文官ヲ懲戒ス其勅任官ニ係ルモノ並ニ奏任官ノ免官ハ内務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ其他ハ之ヲ專行ス

第十四條　總督府ニ總督官房ヲ置ク

總督官房ニ副官二人及專任祕書官二人ヲ置ク機密ニ關スル事務ヲ掌ル

副官ハ陸海軍佐尉官ノ内各一人ヲ以テ之ニ充ツ

祕書官ハ奏任トス

第十五條　總督府ニ民政部、陸軍幕僚、海軍幕僚ヲ置ク

陸海軍幕僚條例ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　民政部ハ行政司法ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第十七條　民政部ニ警察本署及左ノ五局ヲ置ク

總務局
財務局
通信局
殖產局
土木局

通信局ニ測候所及燈臺ヲ附屬セシム

第十八條　總督官房警察本署及各局ノ事務ノ分課ハ總督之ヲ定ム

第十九條　總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

民政長官	一人	勅任
參事官長	一人	勅任
警視總長	一人	勅任又ハ奏任
局長	四人	勅任又ハ奏任
參事官	專任四人	奏任
事務官	專任十五人	奏任
警視	專任三人	奏任
技師	專任十六人	奏任内二人ヲ勅任トナスコトヲ得
海事官	專任四人	奏任
翻譯官	專任五人	奏任

屬
警部
技手
通譯

專任三百二十人　判任

各測候所ヲ通シテ技師一人技手二十二人ヲ置キ各燈臺ヲ通シテ看守三十七人ヲ置ク測候所技師ハ奏任測候所技手及燈臺看守ハ判任トス

第二十條　民政長官ハ總督ヲ佐ケ部務ヲ總理シ各局署ノ事務ヲ監督ス

第二十一條　參事官長ハ總督及民政長官ヲ佐ケ、總務局長ト爲リ及審議立案ニ關スル事務ヲ管理ス

第二十二條　警視總長ハ警察本署ノ長トナリ總督及民政長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ事急ナル場合ニ在テハ其ノ主管事務ニ付廳長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第二十三條　局長ハ總督及民政長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十四條　參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル

參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ總督官房又ハ各局署ノ事務ヲ助ク

第二十五條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ總督官房又ハ各局署ノ事務ヲ掌ル

第二十六條　警視ハ警察本署ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ掌ル

第二十七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ助ク

第二十七條ノ二　海事官ハ通信局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ海事ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條ノ三　測候所技師ハ上官ノ命ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ヲ掌リ測候所技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ニ從事シ燈臺看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス

第二十八條　翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十九條　總督官房及局署中各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

第三十條　屬、技手及通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務技術通譯ニ從事ス

第三十一條　警部ハ警察本署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ニ從事ス

第三十一條ノ二　測候所及燈臺ノ名稱及位置ハ總督之ヲ定ム

附則

臺灣總督府度量衡司檢所官制ハ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府官房並民政部警察本署及各局分課規程

明治三十四年十二月二十一日
官報

臺灣總督府官房並民政部警察本署及各局分課規程

第一章　通則

第一條　官房並民政部警察本署及各局ニ課ヲ置ク

第二條　警察本署及各部局主管ノ事務ニシテ分課ヲ設ケタルモノノ外ハ警察本署長又ハ各局長ニ專屬スルモノトス

第三條　各部局ノ主管ニ屬セサル事項ハ總務局ニ於テ之ヲ掌ル

第二章　官房

第四條　官房ニ秘書課文書課ヲ置ク

第五條　秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ屬スル事項

二　文官ノ進退及身分ニ關スル事項

三　總督ノ官印及府印ノ管守ニ關スル事項

四　恩給遺族扶助及諸手當ニ關スル事項

五　敍勳及褒賞ニ關スル事項

六　儀式典禮ニ關スル事項

七　其ノ他總督ノ特ニ命スル事項

第六條　文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
二　統計報告ニ關スル事項
三　公文書ノ編纂保管及圖書ノ保管ニ關スル事項
四　府報ニ關スル事項

第三章　民政部

第七條　警察本署ニ警務課保安課衛生課ヲ置ク但シ高等警察ニ關スル事務ハ警察本署長ニ直屬ス

第八條　警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　警察配置ニ關スル事項
二　隘勇ニ關スル事項
三　任用敎習賞罰及紀律ニ關スル事項
四　巡査巡査補退隱料及遺族扶助料等ニ關スル事項
五　經費益保管金ニ關スル事項
六　地所建物船舶物品及銃器ニ關スル事項

第九條　保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　司法警察ニ關スル事項
二　監視執行及囚人護送ニ關スル事項
三　保甲及戶口調査ニ關スル事項
四　清國人勞働者取締ニ關スル事項
五　密輸入及海港取締ニ關スル事項
六　採腦食鹽專賣取締ニ關スル事項

七　山林及蕃人取締ニ關スル事項
八　前各項ノ外行政警察ニ關スル事項

第十條　衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　傳染病及地方病ノ豫防檢疫其他總テ公衆衛生ニ關スル事項
二　醫制藥制並賣藥ニ關スル事項
三　阿片專賣取締ニ關スル事項
四　醫學校ニ關スル事項

第十一條　總務局ニ外事課地方課法務課學務課ヲ置ク

第十二條　外事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　外國人ニ關スル事項
二　內地人ノ海外旅行出稼ニ關スル事項
三　外國文書ノ起草翻譯ニ關スル事項
四　外國通商及航海ニ關スル事項
五　內外國人ノ交涉ニ關スル事項
六　前項ニ揭ゲルモノノ外清國對岸地方ニ關スル事項

第十三條　地方課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　地方行政及地方經濟ニ關スル事項
二　兵事及戶籍ニ關スル事項
三　地理ニ關スル事項
四　水利ニ關スル事項

五　社寺ニ關スル事項
六　賑恤救濟及慈善ニ關スル事項

第十四條　法務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　民事刑事其他ノ司法行政ニ關スル事項
二　裁判及檢察事務ニ關スル事項
三　恩赦及復權ニ關スル事項
四　監獄ニ關スル事項
五　看守退隱料及遺族扶助料等ニ關スル事項

第十五條　學務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　學校幼稚園及圖書館其他學制ニ關スル事項
二　學校職員退隱料及遺族扶助料等ニ關スル事項
三　教員檢定ニ關スル事項
四　圖書ノ編纂檢定及著譯ニ關スル事項

第十六條　財務局ニ主計課稅務課會計課ヲ置ク

第十七條　主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　豫算決算ニ關スル事項
二　貨幣及金融ニ關スル事項
三　會計法規ニ關スル事項
四　出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
五　計算書ノ調査及下檢査ニ關スル事項

第十八條　稅務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　國稅及其他ノ諸收入ニ關スル事項
二　內外綿出入統計ニ關スル事項
三　地方稅ニ關スル事項
四　高等土地調査委員會及關稅訴願審査委員會ニ關スル事項

第十九條　會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　總督府ノ會計調度及官有財產ニ關スル事項
二　賞勳年金及恩給支給ニ關スル事項
三　部中取締ニ關スル事項

第二十條　通信局ニ庶務課郵務課電務課海事課ヲ置ク

第二十一條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　郵便、小包郵便、電信、電話、爲替貯金ニ屬スル庶務ニ關スル事項
二　鐵道ニ關スル事項
三　通信事業ノ會計ニ關スル事項

第二十二條　郵務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　郵便小包郵便爲替貯金ニ關スル事項
二　陸運事業ノ監督ニ關スル事項

第二十三條　電務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　電信電話ニ關スル事項
二　電氣事業ノ監督ニ關スル事項

第二十四條　海事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　船舶海員、航路、航路標識ニ關スル事項
二　氣象ニ關スル事項
第二十五條　殖產局ニ農商課拓殖課檢度課ヲ置ク
第二十六條　農商課ニ於テハ左ノ事務ヲ分掌ス
一　農商工及水產ニ關スル事項
二　糖業改良ニ關スル事項
三　農事試驗ニ關スル事項
四　家畜衛生ニ關スル事項
第二十七條　拓殖課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　森林原野及鑛山ニ關スル事項
二　蕃人蕃地ニ關スル事項
第二十八條　檢度課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　度量衡器ノ製作修覆販賣特許ニ關スル事項
二　度量衡器ノ檢定ニ關スル事項
第二十九條　土木局ニ土木課營繕課經理課ヲ置ク
第三十條　土木課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　土木工事ニ關スル事項
二　地方土木工事ノ監督ニ關スル事項
三　地方土木工事ニ對スル工費補助ニ關スル事項

第三十一條　營繕課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　營繕工事ニ關スル事項
二　地方營繕工事ノ監督ニ關スル事項
三　地方營繕工事ニ對スル工費補助ニ關スル事項
第三十二條　經理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　工事費ノ計算ニ關スル事項
二　工事費ニ屬スル工事ノ請負及物件ノ賣買貸借ニ關スル事項
三　工事ニ要スル物品ノ出納保管ニ關スル事項

●臺灣總督府事務委任事項

明治三十四年十二月二十一日
官報

臺灣總督府事務委任事項

第一條　左ニ揭ク事項ハ臺灣總督又ハ臺灣總督府ノ名ヲ以テ官房各課長警察本署長又ハ各局長限リ施行スルコトヲ得

一　判任官以下ノ進退ニ關スル事項

二　判任官以下ノ島外出張ニ關スル事項

第二條　左ニ揭ク事項ハ臺灣總督又ハ臺灣總督府ノ名ヲ以テ官房各課長警察本署長又ハ各局長限リ施行スルコトヲ得

一　判任官以下ノ島內出張巡回ニ關スル事項

二　定例アルカ若クハ輕易ナル廳令告示告諭查閱ニ關スル事項

三　規則ニ依ルカ若クハ先例アル輕易ナル上申伺願届ノ查閱及處分ニ關スル事項

四　總督ノ名ヲ以テ爲スヘキ計算報告其他ノ進達ニ關スル事項

五　規程ノ決定シタル事件ノ範圍內ニ於ケル仕拂計算書同更定計算書ノ令達ニ關スル事項

六　定例アル出納官吏ノ任免同保證金ノ指定同分納許可ニ關スル事項

七　普通ノ場合ニ於ケル出納官吏檢查員立會人計算書調製官吏ノ任命ニ關スル事項

八　規程ノ決定シタル事件ノ範圍內ニ於ケル入札及契約保證金額並豫定價額ヲ定メ及隨意契約ノ保證金免除ニ關スル事項

九　定例アルカ若クハ變形ニ復スルヲ目的トスルモノ及令達豫算ノ範圍內ニ於ケル一廂千五百圓未滿ノ工事又ハ物件ノ運搬賣買貸借勞力供給其他輕易ナル契約締結及處分ニ關スル事項

十　普通ノ場合ニ於ケル工事竣工調書既濟部分ノ調書調製官吏及工事物品ノ檢查官任命ニ關スル事

十一	收入支出報告ニ關スル事項
十二	收入官吏ノ現金拂込及監守證送付區分ノ指定變更ニ關スル事項
十三	過年度支出ニ關スル事項
十四	定額戻入ニ關スル事項
十五	金庫日計對照表證明ニ關スル事項
十六	定期アル諸報告類進達方延期申牒ニ關スル事項
十七	恩給扶助其他死亡賜金退官賜金ニ關スル事項
十八	部下職員（高等官ヲ除ク）請暇及缺勤並除服出仕ニ關スル事項
十九	定例アルカ若クハ輕易ナル告示公告ニ關スル事項
二十	所屬官廳定期報告ニ關スル事項
二十一	官租石代査定ニ關スル事項
二十二	歲入歲出科目ニ關スル事項
二十三	調査事項ニ關シ總督府所屬外各官廳ニ照會往復ニ關スル事項
二十四	廢業ヲ除ク鑛業誌届ニ關スル事項
二十五	輕易ナル陳情書又ハ請願書ノ査閲及其處分ニ關スル事項
二十六	計算報告ノ査閲進達其他處理ニ關スル事項
二十七	恩給諸祿其他ノ歲入徵收委任方禀議ニ關スル事項
二十八	歲入徵收官ノ職務ニ關スル事項
二十九	定期船出帆延期願届ノ許否ニ關スル事項

三十	使用船ノ許否ニ關スル事項
三十一	燈臺所及測候所物品毀損處分ニ關スル事項
三十二	電信電話工夫集配人逓送人郵便夫船員及舸子ノ定員增減ニ關スル事項
三十三	集配度數ノ增減ニ關スル事項
三十四	臨時逓送線路ノ開廢同逓送種別及差立時刻ノ變更又ハ猶豫時刻ノ付與ニ關スル事項
三十五	電信回線變更ニ關スル事項
三十六	學校教員免許狀授與ニ關スル事項

第三條　左ニ掲クル事項ハ民政長官又ハ民政部ノ名ヲ以テ官房各課長警察本署長又ハ各局長限リ施行スルコトヲ得

一	事務上參考トナルヘキ事件ヲ各官廳ニ通牒ニ關スル事項
二	指令又ハ回答ヲ催促スル上申照會ニ關スル事項
三	其他事務上定例アルカ若クハ輕易ニ屬スル通牒照會回答ニ關スル事項
四	現業ノ決定シタル工事ノ購買物件ノ賣買貸借勞力供給契約締結及處分ニ關スル事項
五	輕易ナル會計檢査院審理書答辯ニ關スル事項
六	雜給支辨ニ屬スル囑託員雇員傭員採用及出納又ハ迂路旅行許否ニ關スル事項
七	雜印刷物官報新聞雜誌ノ購入寄贈及配付ニ關スル事項
八	輕易ナル印刷決定ニ關スル事項
九	圖書出納命令又ハ證明ニ關スル事項
十	物品出納命令又ハ證明ニ關スル事項
十一	仕拂命令及返納告知書發行ニ關スル事項

十二　諸收入金ヲ歲入徵收官ニ通牒ニ關スル事項
十三　定例アル恩給諸祿ニ關スル事項
十四　調定ニ關スル事項
十五　金庫通知書ノ整理ニ關スル事項
十六　保管金若クハ證書出納ニ關スル事項
十七　歲入金雜部金月計對照歩證明ニ關スル事項
十八　處分上必要ナル事項ノ調査ヲ總督府所屬各官廳ニ照會往復ニ關スル事項
十九　遞送受負命令ニ關スル事項
二十　郵便規則郵便取扱規程及遞信省公達等ノ條文ニ基ケル疑義其他成規定例アル事項ニ付各局ヘ
　同示ニ關スル事項
二十一　地方稅收入支出及物品出納ノ審理ニ關スル事項
二十二　勳章記章褒狀褒詞恩給並扶助料轉送ニ關スル事項
二十三　受恩給者任官退官通知ニ關スル事項
二十四　非職休職判任官ニ對スル事項取調ニ關スル事項
第四條　左ニ揭ク事項官房各課長警察本署長又ハ各局長限リ其名ヲ以テ之ヲ施行スルコトヲ得
一　定期アル諸報告類提出方督促ニ關スル事項
二　逆式不法ノ書類訂正及却下ニ關スル事項
三　未決裁ノ書面請求ニ依リ下戻ニ關スル事項
四　文書ノ誤送ニ係ルモノ移牒及返戻ニ關スル事項
五　伺上申報告等調査上照會往復ニ關スル事項

六　輕易ナル事務ニシテ所屬官署ノ當該部課長ニ照會往復ニ關スル事項
第五條　第一條第二條ノ文書ハ總督ノ決裁ヲ受クル體式ヲ用ヒ第三條ノ文書ハ民政長官ノ決裁ヲ受クル體式ヲ用ヒ總督又ハ民政長官ノ官名ノ下ニ「委任」ノ文字ヲ記入スルヲ要ス
第六條　委任ノ範圍內ニ屬スル事項ト雖事疑義ニ渉リ又ハ先例ナキモノハ特ニ決裁ヲ經ヘシ
第七條　委任範圍內ニ屬スル事項ニシテ官房各課警察本署又ハ各局ニ聯渉スルモノハ民政部處務規程第九條ニ依リ必ス關係各部局長ニ合議スヘシ

●臺灣總督府評議會章程　●明治二十九年三月勅令第八十九號

改正　●明治三十年五月勅令第百六十一號　●明治三十一年六月勅令第百七號　●明治三十二年七月勅令第三百四十三號　●明治三十四年十一月勅令第二百七號　●明治三十年十一月勅令第四百十一號

朕臺灣總督府評議會章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府評議會章程

第一條　臺灣總督府ニ評議會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

總督

民政長官

陸軍將官參謀長

海軍參謀長

參事官長

覆審法院長

覆審法院檢察官長

警視總長

局長

參事官　　衆任ハ二人ヲ限ル

事務官　　三人以內

但シ陸軍將官參謀長及海軍參謀長ハ會議ノ事件軍事ニ關渉スル場合ニ限リ議事ニ參與スルモノ

トス

總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項職員ノ外會議ノ事件ニ關係アル文武官ニ命シテ臨時其ノ議事ニ參與セシムルコトヲ得但シ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第二條　評議會ハ明治二十九年法律第六十三號ニ依ル命令ヲ議決スルモノトス

第三條　評議會ハ總督ヲ以テ議長トス議長事故アルトキハ出席員中ノ官等最モ高キ者之ヲ代理ス

第四條　評議會ノ議案ハ總督之ヲ發ス

第五條　評議會ノ會議ハ總員半數以上ノ出席アルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第六條　評議會ノ會議ハ出席員ノ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七條　總督ハ何時タリトモ既ニ發シタル議案ヲ修正シ又撤回スルコトヲ得

第八條　總督ニ於テ評議會ノ議決ニ同意スヘカラスト認ムルトキハ其ノ理由ヲ付シテ再議ヲ求ムルコトヲ得

第九條　評議會ニ幹事一人及書記若干人ヲ置ク幹事ハ參事官書記ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ上官ノ命ヲ承ケ出席員ノ氏名會議ノ事件及議決ノ要旨ヲ筆記スヘシ

●臺灣中央衛生會規則

明治三十年三月臺灣總督府令第八號

改正　●明治三十年十二月府令第六十三號　●明治三十四年十一月府令第百四號

臺灣中央衛生會規則左ノ通相定ム

臺灣中央衛生會規則

第一條　臺灣中央衛生會ハ臺灣總督ニ屬シ公衆衛生ニ關スル事項ニ就キ臺灣總督ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　臺灣中央衛生會ハ衛生ニ關スル事項ニ就テハ臺灣總督ニ建議スルコトヲ得

第三條　臺灣中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ニ關シ地方長官ニ諮問ヲ要シ或ハ會員ヲ臨時各地方ニ派遣シテ調査檢察ヲ要スト認ムルトキハ之レヲ臺灣總督ニ具申スヘシ

第四條　臺灣中央衛生會ハ會長一人委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ臺灣總督府局長、事務官、參事官、技師六人臺灣總督府民政部警察本署長、臺灣陸軍軍醫部長、臺北醫院長及醫師、藥學家若干人ヲ以テ之ニ充ツ

委員中臺灣總督府局長、事務官、參事官、技師、醫師、藥學家ハ臺灣總督之ヲ命ス

第五條　醫師藥學家ヨリ出タル委員ノ任期ハ二箇年トス但滿期後再任セラルヽコトヲ得

第六條　臺灣總督ハ特別ノ事件ヲ審議スル爲臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　會長ハ會務ヲ總管シ議事ヲ整理シ其決議ヲ臺灣總督ニ具申ス

第八條　會長事故アルトキハ臺灣總督ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條　臺灣中央衛生會ニ幹事一人ヲ置キ臺灣總督府事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十條　臺灣中央衛生會ニ書記ヲ置キ臺灣總督府屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ議事ノ經記及庶務ニ從事ス

第十一條　醫師藥學家及臨時委員ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニハ出席數ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトアルヘシ

●高等土地調査委員會規則

明治三十一年七月律令第十五號

改正　●明治三十五年七月律令第六號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル高等土地調査委員會規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

高等土地調査委員會規則

第一條　臺灣土地調査規則第五條ニ揭ケル査定ニ對スル不服ノ申立ヲ裁決セシムル爲臺灣總督府ニ高等土地調査委員會ヲ置キ委員長一人及委員九人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　委員長ハ臺灣總督ヲ以テ之ニ充テ委員ノ中三人ハ臺灣總督府高等行政官三人ハ學識名望アル者ニ就キ內務大臣ニ由リ內閣總理大臣ヲ經テ臺灣總督奏薦宣行ス

第三條　委員會ハ委員長及委員ヲ合セテ六人以上ノ出席アルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス

第四條　高等土地調査委員會ノ裁決ヲ經タル事項ニ對シテハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第五條　此規則ニ定ムルモノヽ外高等土地調査委員會ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

●高等土地調査委員會規程

明治三十二年四月
臺灣總督府令第二十七號

改正 ●明治三十五年八月府令第六十五號

高等土地調査委員會規程左ノ通相定ム

高等土地調査委員會規程

第一條　高等土地調査委員會ハ會議ノ必要アル毎ニ委員長之ヲ召集ス

第二條　會議ニ付スヘキ事項ハ三日以前ニ之ヲ各委員ニ通知スヘシ

第三條　高等土地調査委員會ニ四名ノ審査委員ヲ常設ス

審査委員ハ高等土地調査委員長高等土地調査委員中ヨリ之ヲ選任ス

第四條　臺灣土地調査規則第五條第二項ニ依リ高等土地調査委員長ニ報告セシム

委員ヲシテ之ヲ調査セシメ其結果ヲ高等土地調査委員長ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決ス

第五條　高等土地調査委員會ノ議事ハ出席員ノ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決ス

ル所ニ依ル

第六條　高等土地調査委員會及其審査委員ハ當事者及第三者ニ出頭ヲ命シ並必要ト認ムル證憑ヲ徵シ

又ハ證人及鑑定人ヲ召喚スルコトヲ得其他必要アリト認ムルトキハ官廳又ハ人民ト文書ヲ往復シ又

ハ委員ヲ派遣シテ實地ヲ臨檢セシムルコトヲ得

第七條　高等土地調査委員會ノ議事ハ議事錄ニ筆記スルコトヲ要ス

第八條　高等土地調査委員會ノ裁決ハ裁決書ニ作リ理由ヲ付シ裁決ニ干與シタル委員之ニ署名捺印シ

其謄本ニ高等土地調査委員會ノ印章ヲ押捺シ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第九條　委員長事故アルトキハ其指定シタル委員ヲ以テ其事務ヲ代理セシム

第十條　高等土地調査委員會ニ幹事一名書記及通譯若干名ヲ置ク

幹事ハ臺灣總督府高等官書記ハ臺灣總督府判任官通譯ハ臺灣總督府高等官書記ハ臺灣總督府判任官通譯ノ中ヨリ之ニ充ツ

第十一條　幹事ハ高等土地調査委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記及通譯ハ委員長委員及幹事ノ命ヲ承ケ議事ノ筆記通譯及庶務ニ從事ス

第十二條　高等土地調査委員會ノ議事及審査委員ノ審査ニ關スル規程ハ高等土地調査委員長之ヲ定ム

●臨時臺灣土地調査局官制

明治三十三年八月勅令第三百四十號

改正

明治三十五年十一月勅令第二百五十九號

廢臨時臺灣土地調査局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時臺灣土地調査局官制

第一條　臨時臺灣土地調査局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ地籍調査、圖根測量及地圖臺帳ノ調製ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條　臨時臺灣土地調査局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	勅任又ハ奏任
事務官	專任六人	奏任
技師	專任五人	奏任
監督官	專任十七人	奏任
屬	專任七百八十人	判任
技手		

第三條　（削除）

第四條　局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ郡下ノ官吏ヲ監督ス

局長ハ奏任官ノ進退ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第五條　（削除）

第六條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

第七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ分掌ス
第八條　監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ實地業務ノ監督事務ヲ分掌ス
第九條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及調査事務ニ從事ス
第十條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス
第十一條　局長ハ高等官ノ懲戒ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ懲戒ハ之ヲ行フ
第十二條　臺灣總督ハ必要ニ應シ地方ニ支局ヲ置クコトヲ得
第十三條　支局ニハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

● 臨時臺灣舊慣調査會規則

明治三十四年十月勅令第百九十六號

臨時臺灣舊慣調査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時臺灣舊慣調査會規則

第一條　臨時臺灣舊慣調査會ハ臺灣總督ノ監督ニ屬シ法制及農工商經濟ニ關スル舊慣ヲ調査ス
第二條　臨時臺灣舊慣調査會ハ會長一人委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
第三條　會長ハ臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ
第四條　委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
第五條　臨時臺灣舊慣調査會ノ調査ニ關スル規則ハ臺灣總督之ヲ定ム
第六條　會長ハ調査事務ヲ整理シ其ノ事項ヲ臺灣總督ニ具申ス
第七條　臨時臺灣舊慣調査會ニ部長二人ヲ置キ委員中ニ就キ臺灣總督之ヲ命ス
第八條　委員ニハ一箇年二千五百圓以內ノ手當ヲ給ス
　部長ニハ特ニ千五百圓以內ヲ增給スルコトアルヘシ
第九條　臨時臺灣舊慣調査會ニ補助委員二十人以內ヲ置キ委員ノ指揮ヲ承ケ調査事務ヲ補助セシム
第十條　臨時臺灣舊慣調査會ニ書記通譯若干人ヲ置キ書記ハ庶務會計ニ通譯ハ翻譯通辯ニ從事セシム
第十一條　補助委員ニハ一箇年千五百圓以內ノ手當ヲ給ス
第十二條　書記及通譯ニハ一箇年千圓以內ノ手當ヲ給ス
第十三條　臺灣總督府職員ニシテ委員補助委員書記又ハ通譯ヲ兼ヌル者ニハ手當ヲ給セス

●臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則

明治三十二年九月勅令第三百八十七號

脫臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會規則

第一條　關稅法第六十九條ニ依ル委員會ハ臺灣關稅及出港稅訴願審查委員會ト稱シ會長一人委員五人ヲ以テ組織ス

第二條　會長ハ臺灣總督府民政長官委員ハ臺灣總督府高等官三人臺灣總督府法院判官二人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條　委員ハ臺灣總督ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條　關稅及出港稅訴願審查委員會ニ幹事一人ヲ置キ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　關稅及出港稅訴願審查委員會ニ書記二人ヲ置キ臺灣總督府屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

●臺灣總督府圖書編修職員官制　明治三十四年四月勅令第八十三號

朕臺灣總督府圖書編修職員官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府圖書編修職員官制

第一條　教科用圖書ノ編修及檢定ノ事務ヲ掌理セシムル爲臺灣總督府ニ臨時左ノ職員ヲ置キ臺灣總督ノ管理ニ屬セシム

編修官　專任二人　奏任

編修書記　專任五人　判任

第二條　編修官ハ上官ノ命ヲ承ケ圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第三條　編修書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務ニ從事ス

●臨時臺灣基隆築築局官制

明治三十五年十一月勅令第二百六十號

改正

●明治三十三年八月勅令第三百三十一號

廢臨時臺灣基隆築港局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臨時臺灣基隆築港局官制

第一條　臨時臺灣基隆築港局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ基隆築港ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條　臨時臺灣基隆築港局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	奏任
事務官	一人	奏任內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
技師	六人	判任
書記	十五人	判任
技手	二十人	判任
通譯	三人	

第三條　局長ハ臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ

局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

局長ハ奏任官ノ進退ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第四條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第五條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工務ヲ分掌ス

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第八條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

◉第二節　海港檢疫

●臺灣總督府海港檢疫所官制

明治三十三年三月勅令第百十九號

改正　●明治三十四年四月勅令第七十五號

朕臺灣總督府海港檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府海港檢疫所官制

第一條　臺灣總督府海港檢疫所ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ臺灣海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　臺北〔縣〕基隆ニ海港檢疫所ヲ置キ基隆海港檢疫所ト稱ス

前項ノ外臺北〔縣〕滬尾ニ基隆海港檢疫所ノ支所ヲ置ク

第三條　海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人	
海港檢疫官	一人	奏任
海港檢疫醫官	一人	奏任
海港檢疫官補	一人	判任
海港檢疫醫官補	一人	判任
海港檢疫所書記	二人	判任

海港檢疫所支所ニ左ノ職員ヲ置ク

支所長	一人	
海港檢疫官	一人	奏任
海港檢疫醫官	一人	奏任
海港檢疫官補	一人	判任
海港檢疫醫官補	一人	判任
海港檢疫所書記	二人	判任

海港檢疫官補　專任一人　判任
海港檢疫醫官補　專任一人　判任
海港檢疫所書記　專任二人　判任

第四條　所長ハ海港檢疫官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ補ス
所長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
所長ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ所中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得
支所長ハ海港檢疫官又ハ海港檢疫官補ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ補ス
支所長ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條　海港檢疫官ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫ヲ掌ル

第六條　海港檢疫醫官ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務ヲ掌ル

第七條　海港檢疫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ從事ス

第八條　海港檢疫醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

第九條　海港檢疫所調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第十條　海港檢疫所書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條　臺灣總督ハ臨時必要アリト認ムルトキハ檢疫又ハ醫務若ハ通譯ニ從事セシムル爲豫算定額內ニ於テ海港檢疫所又ハ支所ニ檢疫員檢疫醫員ヲ置クコトヲ得

檢疫員及檢疫醫員ハ判任ノ待遇トス

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府臨時海港檢疫所官制　明治三十三年十一月勅令第四百三號

廢臺灣總督府臨時海港檢疫所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府臨時海港檢疫所官制

第一條　臺灣總督府臨時海港檢疫所ハ臨時海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　臨時海港檢疫所ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ知事廳長之ヲ管理ス

第三條　臨時海港檢疫所ノ開設及閉鎖ハ臺灣總督之ヲ告示ス

第四條　臨時海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　一人
臨時海港檢疫官補
臨時海港檢疫所書記
臨時海港檢疫員
臨時海港檢疫醫員

第五條　所長ハ臨時海港檢疫所所在〔縣〕廳ノ警部長（警部長ヲ置カサル廳ニ於テハ廳長）ヲ以テ之ニ充ツ
所長ハ知事廳長ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第六條　臨時海港檢疫官補及臨時海港檢疫所書記ハ〔縣〕、廳及其ノ所屬官衙判任官ヲ以テ之ニ充テ知事廳長之ヲ命ス

第七條　臨時海檢疫員及臨時海港檢疫醫員ハ知事廳長之ヲ命シ其ノ待遇ハ判任トス

第八條　臨時海港檢疫官補ハ所長ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ從事ス

第九條　臨時海港檢疫所書記ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　臨時海港檢疫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫ニ從事ス

第十一條　臨時海港檢疫醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

◉第三節　醫院

●臺灣總督府醫院官制　明治三十一年六月勅令第百十一號

朕臺灣總督府醫院官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府醫院官制

第一條　臺灣總督府醫院ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌ル

第二條　各醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長　醫長　醫員

藥局長　調劑師　書記

第三條　院長ハ各院一人奏任トス

院長ハ醫長ヲ以テ之ヲ兼ネシム

第四條　醫長ハ奏任、醫員及藥局長ハ奏任又ハ判任トス

第五條　院長ハ臺灣總督ノ命ヲ受ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第六條　醫長、醫員及藥局長ハ院長ノ命ヲ承ケ診療及調劑ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　調劑師及書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各主務ニ從事ス

第八條　醫院ノ名稱及位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十一年六月二十日ヨリ施行ス

◉第四節　神社

●官幣大社臺灣神社神職定員及出仕採用ノ件

明治三十四年四月臺灣總督府令第十九號

官幣大社臺灣神社神職定員及出仕採用ノ件左ノ通相定ム

官幣大社臺灣神社神職定員及出仕採用規定

第一條　臺灣神社神職定員左ノ如シ

宮司	一人
禰宜	三人
主典	八人

第二條　臺灣神社ニ出仕（雇）ヲ置キ主典ノ職務ヲ補助セシムルコトヲ得

●官幣大社臺灣神社ニ守衛ヲ置クノ件

明治三十四年十月
臺灣總督府令第六十三號

官幣大社臺灣神社ニ守衛（雇）四名ヲ置キ神社境内警衛ノ事ヲ掌ラシム

◉第五節　練習所

●臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制

明治三十三年二月勅令第二十二號

改正　●明治三十三年二月勅令第二十二號

廢臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制

第一條　臺灣總督府警察官及司獄官練習所ハ警部、巡査、監獄書記、看守長、看守タルニ必要ナル學術及實務ヲ教授スル所トス

第二條　警察官及司獄官練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
教官
舍監
書記

第三條　所長ハ一人奏任トシ臺灣總督府事務官又ハ參事官ヲシテ之ヲ兼ネシム

所長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　所長ハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ所內ノ規則ヲ定ムルコトヲ得

第五條　專任教官ハ奏任三人及判任五人トス

所長ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

所長事故アルトキハ上席教官其ノ職務ヲ代理ス

第六條　倉庫ハ專任一人奏任又ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ練習生ノ紀律ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　書記ハ四人判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ明治三十一年七月一日ヨリ施行ス

明治三十年勅令第九十三號臺灣總督府巡査看守教習所官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◉第六節　專賣局

●臺灣總督府專賣局官制　明治三十四年五月勅令第百十六號

改正　●明治三十五年十一月勅令第二百五十八號

朕臺灣總督府專賣局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府專賣局官制

第一條　臺灣總督府專賣局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌理ス

一　樟腦、樟腦油、阿片及ヒ食鹽ノ收納、賣買、賣渡、保管、製造及ヒ檢查ニ關スル事項

二　樟腦ノ製造特許及取締ニ關スル事項

三　鹽田ニ關スル事項

臺灣總督府專賣局ハ當分ノ內衛生及殖產上試驗ニ關スル事項ヲ兼掌ス

第二條　臺灣總督府專賣局ハ之ヲ臺北ニ置ク

第三條　臺灣總督府專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	勅任又ハ奏任
事務官	專任九人	奏任
技師	專任六人	奏任
翻譯官	專任三人	奏任
書記	專任百人	判任
技手	專任四十人	判任

通譯　專任四人　判任

第四條　前條定員ノ外必要ニ應シ俸給定額內ニ於テ技師及技手ヲ置クコトヲ得

第五條　局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

局長ハ奏任官ノ進退ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ自ラ之ヲ行フ

第六條　（削除）

第七條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第八條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ分掌ス

第九條　翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯及通譯ノ事務ヲ分掌ス

第十條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十一條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第十三條　臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ支局ヲ置クコトヲ得

第十四條　支局長ハ事務官技師又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條　支局長ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ支局一切ノ事務ヲ掌理ス

附則

第十六條　本令ハ明治三十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　臺灣總督府製藥所官制、臺灣鹽務局官制及臺灣樟腦局官制ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●臺灣總督府專賣局及專賣支局出張所名稱位置

明治三十四年十月臺灣總督府告示第百十七號

改正

●明治三十四年十二月告示第百四十三號　●明治三十五年七月告示第八十一號　●明治三十五年十二月告示第百六十八號

●明治三十五年二月告示第十八號　●明治三十五年十月告示第百二十七號　●明治三十六年六月告示第五十八號

明治三十四年六月告示第六十一號、同年九月告示第九十六號臺灣總督府專賣局及支局出張所ノ名稱、位置明治三十四年十一月十一日ヨリ左ノ通改正ス

局名	出張所名	位置
臺灣總督府專賣局	臺南出張所	臺南廳臺南
臺灣總督府專賣局苗栗支局	八角出張所	苗栗廳八角林庄
	南湖出張所	同　南湖街
臺灣總督府專賣局臺中支局	東勢角出張所	臺中廳東勢角
	南投出張所	南投廳南投
	埔里社出張所	同　埔里社
	林圯埔出張所	斗六廳林圯埔
臺灣總督府專賣局打狗支局	東港出張所	阿猴廳東港

●臺灣總督府樟腦及樟腦油專賣支局ノ名稱位置及管轄區域

明治三十四年六月府令第三十二號臺灣總督府專賣支局ノ名稱位置及管轄區域ヲ定ム

明治三十四年十月臺灣總督府令第六十四號

本令ハ明治三十四年十一月十一日ヨリ施行ス

名稱	位置	管轄區域
臺灣總督府專賣局苗栗支局	臺中〔縣〕苗栗	臺中〔縣〕苗栗〔辨務署〕管內
臺灣總督府專賣局臺中支局	臺中〔縣〕臺中	臺中〔縣〕臺中、彰化、北斗、南投、斗六、北港〔辨務署〕管內及臺南〔縣〕管內
臺灣總督府專賣局神戶支局	兵庫縣神戶	

●臺灣總督府食鹽專賣支局名稱位置及管轄區域

明治三十四年六月府令第三十三號臺灣總督府專賣局支局ノ名稱位置及管轄區域左ノ通改正ス

明治三十六年三月臺灣總督府令第二十一號

臺灣總督府專賣局支局名稱位置及管轄區域

管轄局名	位置	管轄區域
臺灣總督府專賣局	臺北廳臺北	基隆鹽務總館 金包里鹽務支館 頂雙溪鹽務支館 坡仔鑿鹽務支館 暖々鹽務支館 頭圍鹽務總館 宜蘭鹽務支館 羅東鹽務支館 利澤簡鹽務支館 臺北鹽務總館 大稻埕鹽務支館 錫口鹽務支館 新庄鹽務支館 枋橋鹽務支館 枋鑿鹽務支館 水返脚鹽務支館 景尾鹽務支館 士林鹽務支館 深坑鹽務支館 桃仔園鹽務支館 三角湧鹽務支館 中壢鹽務支館 大嵙崁鹽務支館 淡水鹽務總館 八里坌鹽務支館 石門鹽務支館 管轄內
臺灣總督府專賣局油車港支局	新竹廳油車港	新竹鹽務總館 新埔鹽務支館 舊港鹽務支館 大湖口鹽務支館 紅毛港鹽務支館 後壠鹽務總館 苗栗鹽務支館 中港鹽務支館 頭份鹽務支館 大甲鹽務總館 苑裡鹽務支館 呑霄鹽務支館 管轄內
臺灣總督府專賣局鹿港支局	彰化廳鹿港	臺中鹽務總館 葫蘆墩鹽務支館 南投鹽務支館 湖口庄鹽務支館 社口街鹽務支館 琅仔街鹽務支館 鹿港鹽務總館 梧棲鹽務支館 新港鹽務支館 彰化鹽務支館 員林鹽務支館 北斗鹽務支館 番控鹽務支館 二林鹽務支館 埔里社鹽務總館 龜仔頭鹽務支館 管轄內
臺灣總督府專賣局布袋嘴支局	嘉義廳布袋嘴	雲林鹽務總館 他里霧鹽務支館 西螺鹽務支館 嘉義鹽務總館 水屈頭鹽務支館 大莆林鹽務支館 打猫鹽務支館 塗庫鹽務支館 布袋嘴鹽務總館 麥寮鹽務支館 撲雅脚鹽務支館 笨南港鹽務支館 北港鹽務支館 管轄內